

I 調査の概要

1. 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査項目

調査 I

- (1) 県政の重要度と満足度について
- (2) 次期総合計画について

調査 II

- (1) スポーツについて
- (2) 地域密着型スポーツについて
- (3) ボランティア・NPO活動について
- (4) 新型インフルエンザに対する県の対策について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の県民
- (3) 標本数 6,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査法 郵送法
- (6) 調査時期 平成22年6月21日～7月12日

4. 回収状況

	調査 I	調査 II
標本数	3,000	3,000
有効回収数	1,440 (48.0%)	1,579 (52.6%)

5. サンプル設計

- (1) 母集団 香川県内の市町に居住する満 20 歳以上の県民
- (2) 標本数 6, 0 0 0
- (3) 地点数 1 5 1 地点 (市部 : 1 2 6 地点、町部 : 2 5 地点)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

〔 層 化 〕

県内の市町 (8 市 9 町) を次のように 5 圏域に分類した。

圏 域 名	構 成 市 町
1. 高松地域	高松市・三木町・直島町・綾川町
2. 東讃地域	東かがわ市・さぬき市
3. 小豆地域	土庄町・小豆島町
4. 中讃地域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5. 西讃地域	観音寺市・三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって

- ①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

〔 標本数の配分 〕

各層における母集団数 (平成 2 2 年 3 月 2 日現在の選挙人名簿登録者数) の大きさにより、6, 0 0 0 の標本数を比例配分した。

〔 抽 出 〕

- ① 第 1 次抽出単位となる調査地点として、平成 2 2 年 3 月 2 日現在の投票区を使用した。
- ② 調査地点数については、1 調査地点あたりの標本数が 4 0 前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。
- ③ 調査地点の抽出は、調査地点数が 2 地点以上割り当てられた層については、

$$\left[\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right]$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

- ④ 抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ⑤ 調査地点における対象者の抽出は、調査地点 (投票区) 内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。
- ⑥ 以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は次のとおりである。

〈調査Ⅰ 圏域別・市町規模別 標本数及び調査地点数〉

上段：母集団数

下段：標本数、()内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1. 高松地域	343,627 1,239 (62)	—	48,104 174 (9)	391,731 1,413 (71)
2. 東讃地域	—	75,095 271 (13)	—	75,095 271 (13)
3. 小豆地域	—	—	28,020 101 (5)	28,020 101 (5)
4. 中讃地域	—	166,127 599 (30)	58,865 212 (11)	224,992 811 (41)
5. 西讃地域	—	112,074 404 (21)	—	112,074 404 (21)

〈調査Ⅱ 圏域別・市町規模別 標本数及び調査地点数〉

上段：母集団数

下段：標本数、()内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1. 高松地域	343,627 1,239 (62)	—	48,104 173 (9)	391,731 1,412 (71)
2. 東讃地域	—	75,095 271 (13)	—	75,095 271 (13)
3. 小豆地域	—	—	28,020 101 (5)	28,020 101 (5)
4. 中讃地域	—	166,127 599 (30)	58,865 213 (11)	224,992 812 (41)
5. 西讃地域	—	112,074 404 (21)	—	112,074 404 (21)

6. 報告書の見方

- (1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- (2) グラフにおける「N」は、比率算出の基数であり、その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 複数回答の設問の場合、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 調査対象者の職業別及び圏域別の区分は次のとおりである。

◆職業別

農林漁業：農林漁業を営んでいる（家族従業者も含む）

商工業、サービス業、自由業など：商工業、サービス業、自由業などを営んでいる
（家族従業者も含む）

会社、商店、官公庁などに勤務：会社、商店、官公庁などに勤めている（パートも含む）

主婦・主夫：主婦・主夫（家族の中で家事が主な役割の方）

無職：無職（学生を含む）

◆圏域別

高松地域：高松市・三木町・直島町・綾川町

東讃地域：東かがわ市・さぬき市

小豆地域：土庄町・小豆島町

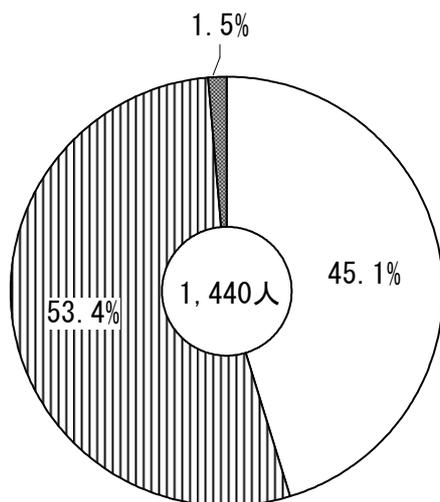
中讃地域：丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町

西讃地域：観音寺市・三豊市

Ⅱ 調査 I

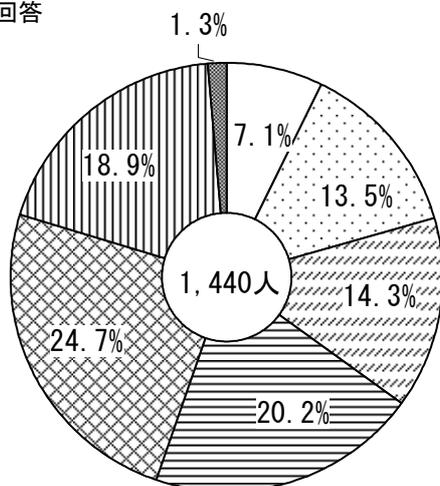
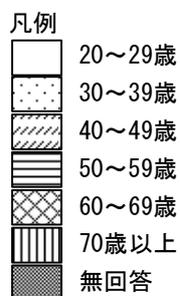
1. 調査回答者の属性

1) 性別



区 分	回答者数(人)	構成比(%)
1. 男性	650	45.1
2. 女性	769	53.4
(無回答)	21	1.5
合 計	1,440	100.0

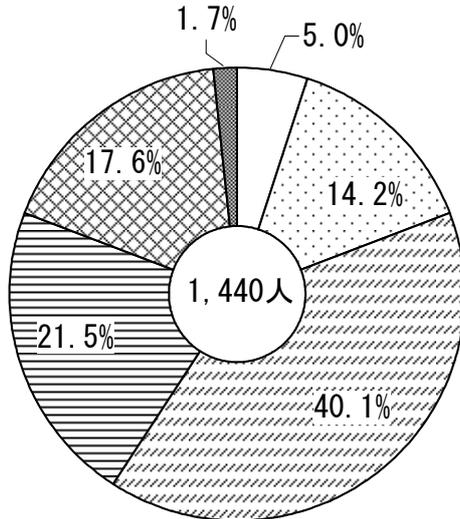
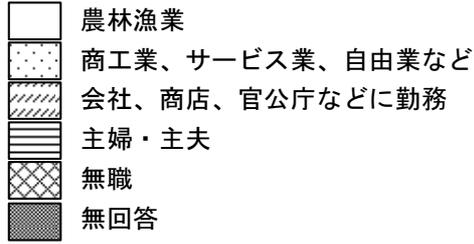
2) 年齢



区 分	回答者数(人)	構成比(%)
1. 20～29歳	102	7.1
2. 30～39歳	195	13.5
3. 40～49歳	206	14.3
4. 50～59歳	291	20.2
5. 60～69歳	355	24.7
6. 70歳以上	272	18.9
(無回答)	19	1.3
合 計	1,440	100.0

3) 職業

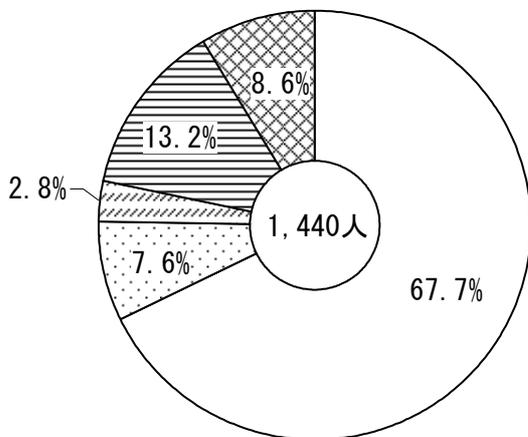
凡例



区分	回答者数(人)	構成比(%)
1. 農林漁業	72	5.0
2. 商工業、サービス業、自由業など	204	14.2
3. 会社、商店、官公庁などに勤務	577	40.1
4. 主婦・主夫	309	21.5
5. 無職	254	17.6
(無回答)	24	1.7
合計	1,440	100.0

4) 圏域

凡例

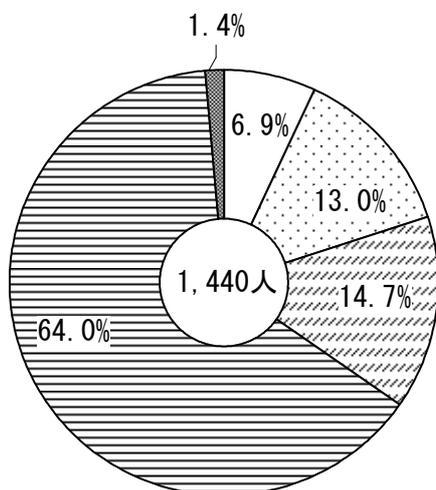


区分	回答者数(人)	構成比(%)
1. 高松地域	975	67.7
2. 東讃地域	110	7.6
3. 小豆地域	41	2.8
4. 中讃地域	190	13.2
5. 西讃地域	124	8.6
合計	1,440	100.0

5) 居住年数

凡例

- 3年未満
- 3年以上～10年未満
- 10年以上～20年未満
- 20年以上
- 無回答



区 分	回答者数(人)	構成比(%)
1. 3年未満	100	6.9
2. 3年以上～10年未満	187	13.0
3. 10年以上～20年未満	212	14.7
4. 20年以上	921	64.0
(無回答)	20	1.4
合 計	1,440	100.0

2. 調査の集計結果

(1) 県政の重要度と満足度について

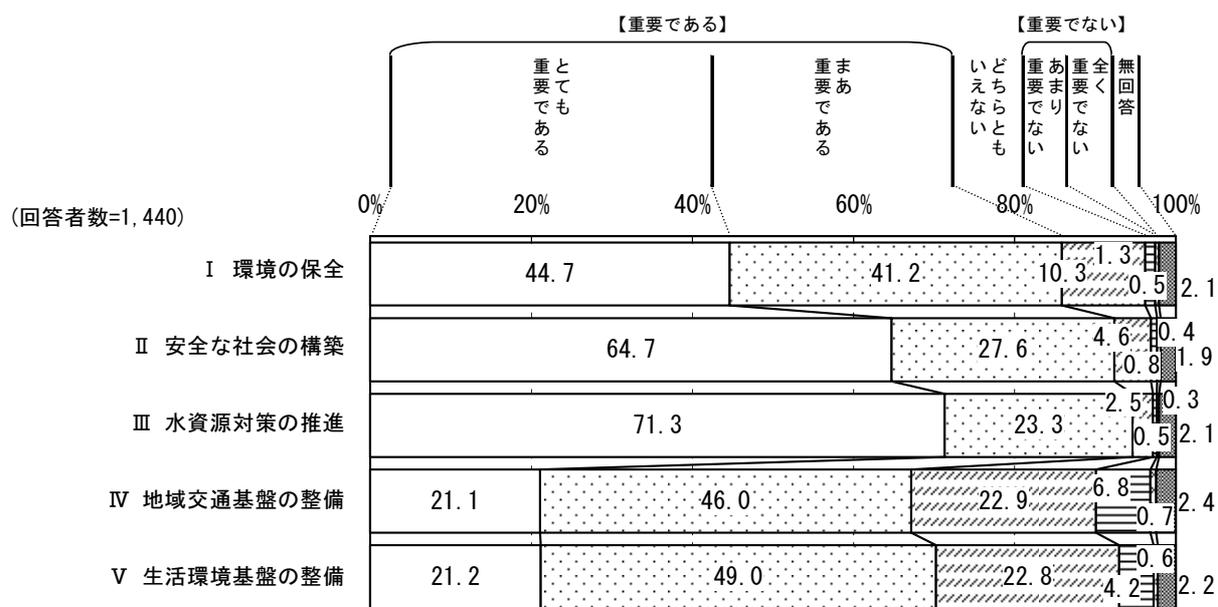
1) 安全で快適な生活空間（重要度）

問1 「安全で快適な生活空間」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	① とても重要である	② まあ重要である	③ どちらともいえない	④ あまり重要でない	⑤ 全く重要でない	⑥ 無回答
[回答者数=1,440]						
I 環境の保全	44.7	41.2	10.3	1.3	0.5	2.1
II 安全な社会の構築	64.7	27.6	4.6	0.8	0.4	1.9
III 水資源対策の推進	71.3	23.3	2.5	0.5	0.3	2.1
IV 地域交通基盤の整備	21.1	46.0	22.9	6.8	0.7	2.4
V 生活環境基盤の整備	21.2	49.0	22.8	4.2	0.6	2.2

「安全で快適な生活空間」の重要度については、すべての施策項目において「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が6割を超えており、特に、“安全な社会の構築”と“水資源対策の推進”では9割を超え、多くなっている。



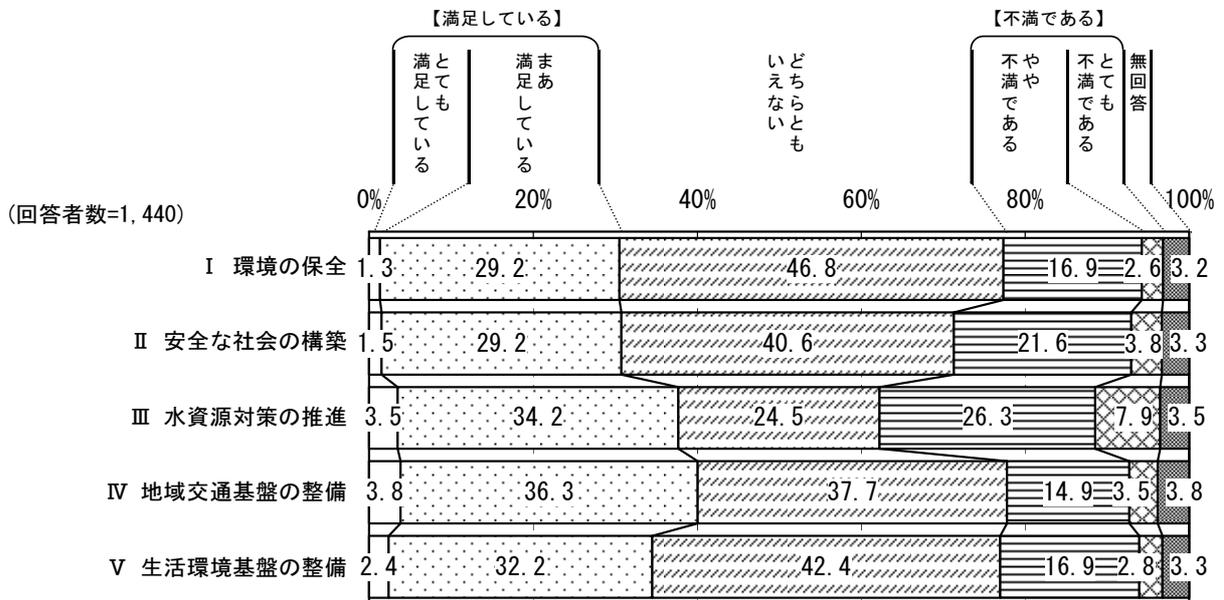
2) 安全で快適な生活空間（満足度）

問1 「安全で快適な生活空間」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの〈満足度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	満足度					
	① とても満足している	② まあ満足している	③ どちらともいえない	④ やや不満である	⑤ とても不満である	⑥ 無回答
[回答者数=1,440]						
I 環境の保全	1.3	29.2	46.8	16.9	2.6	3.2
II 安全な社会の構築	1.5	29.2	40.6	21.6	3.8	3.3
III 水資源対策の推進	3.5	34.2	24.5	26.3	7.9	3.5
IV 地域交通基盤の整備	3.8	36.3	37.7	14.9	3.5	3.8
V 生活環境基盤の整備	2.4	32.2	42.4	16.9	2.8	3.3

「安全で快適な生活空間」の満足度については、すべての施策項目において「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。特に、“地域交通基盤の整備”では【満足している】が4割を超え、比較的多くなっている。



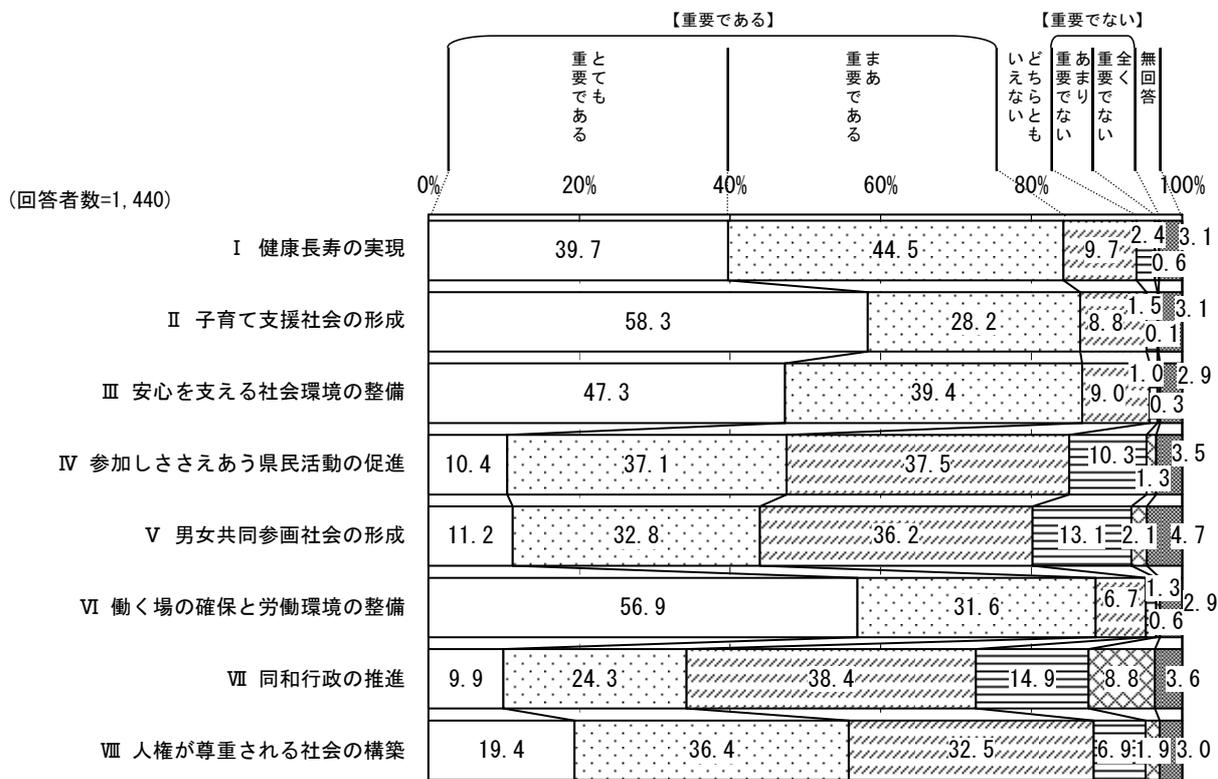
3) ささえあい、安心して暮らせる社会（重要度）

問2 「ささえあい、安心して暮らせる社会」についておたずねします。Ⅰ～Ⅷの各施策についてあなたの＜重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	⑥無回答
〔回答者数=1,440〕						
Ⅰ 健康長寿の実現	39.7	44.5	9.7	2.4	0.6	3.1
Ⅱ 子育て支援社会の形成	58.3	28.2	8.8	1.5	0.1	3.1
Ⅲ 安心を支える社会環境の整備	47.3	39.4	9.0	1.0	0.3	2.9
Ⅳ 参加しさえあう県民活動の促進	10.4	37.1	37.5	10.3	1.3	3.5
Ⅴ 男女共同参画社会の形成	11.2	32.8	36.2	13.1	2.1	4.7
Ⅵ 働く場の確保と労働環境の整備	56.9	31.6	6.7	1.3	0.6	2.9
Ⅶ 同和行政の推進	9.9	24.3	38.4	14.9	8.8	3.6
Ⅷ 人権が尊重される社会の構築	19.4	36.4	32.5	6.9	1.9	3.0

「ささえあい、安心して暮らせる社会」の重要度については、“参加しさえあう県民活動の促進”と“男女共同参画社会の形成”“同和行政の推進”において「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が5割を下回っている。一方で、その他の多くの施策項目では【重要である】が8割を超え、多くなっている。



4) ささえあい、安心して暮らせる社会（満足度）

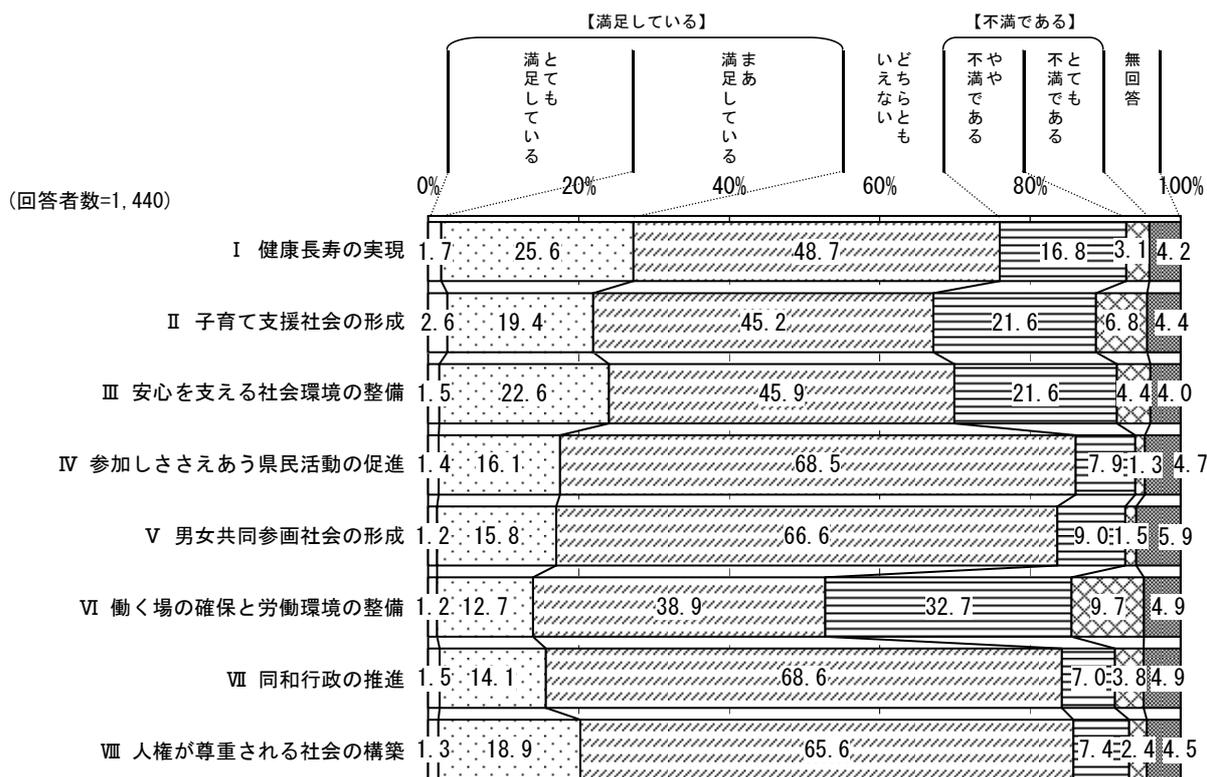
問2 「ささえあい、安心して暮らせる社会」についておたずねします。Ⅰ～Ⅷの各施策についてあなたの〈満足度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	⑥無回答
Ⅰ 健康長寿の実現	1.7	25.6	48.7	16.8	3.1	4.2
Ⅱ 子育て支援社会の形成	2.6	19.4	45.2	21.6	6.8	4.4
Ⅲ 安心を支える社会環境の整備	1.5	22.6	45.9	21.6	4.4	4.0
Ⅳ 参加しさえあう県民活動の促進	1.4	16.1	68.5	7.9	1.3	4.7
Ⅴ 男女共同参画社会の形成	1.2	15.8	66.6	9.0	1.5	5.9
Ⅵ 働く場の確保と労働環境の整備	1.2	12.7	38.9	32.7	9.7	4.9
Ⅶ 同和行政の推進	1.5	14.1	68.6	7.0	3.8	4.9
Ⅷ 人権が尊重される社会の構築	1.3	18.9	65.6	7.4	2.4	4.5

〔回答者数=1,440〕

「ささえあい、安心して暮らせる社会」の満足度については、“健康長寿の実現”と“参加しさえあう県民活動の促進”“男女共同参画社会の形成”“同和行政の推進”“人権が尊重される社会の構築”において「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。しかし、すべての施策項目において【満足している】が3割を下回り少なくなっている。



5) きらめく個性、豊かな心（重要度）

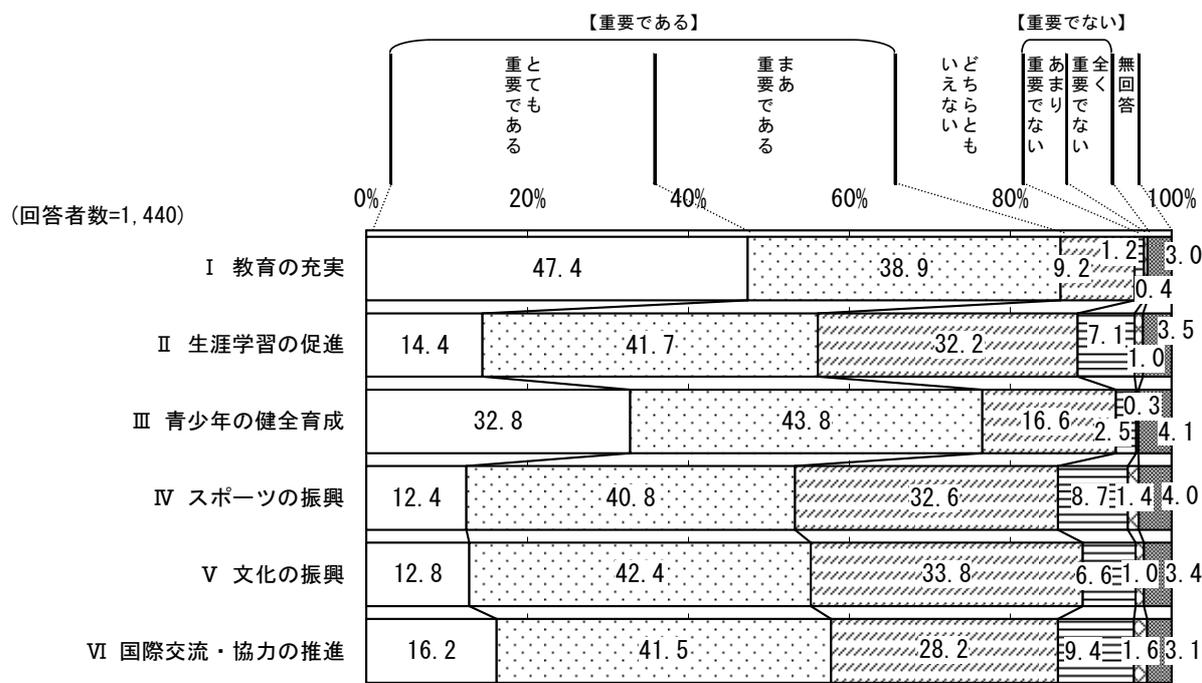
問3 「きらめく個性、豊かな心」についておたずねします。I～VIの各施策についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	⑥無回答
I 教育の充実	47.4	38.9	9.2	1.2	0.4	3.0
II 生涯学習の促進	14.4	41.7	32.2	7.1	1.0	3.5
III 青少年の健全育成	32.8	43.8	16.6	2.5	0.3	4.1
IV スポーツの振興	12.4	40.8	32.6	8.7	1.4	4.0
V 文化の振興	12.8	42.4	33.8	6.6	1.0	3.4
VI 国際交流・協力の推進	16.2	41.5	28.2	9.4	1.6	3.1

[回答者数=1,440]

「きらめく個性、豊かな心」の重要度については、すべての施策項目において「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が5割を超えており、特に、“教育の充実”と“青少年の健全育成”では7割を超え、多くなっている。



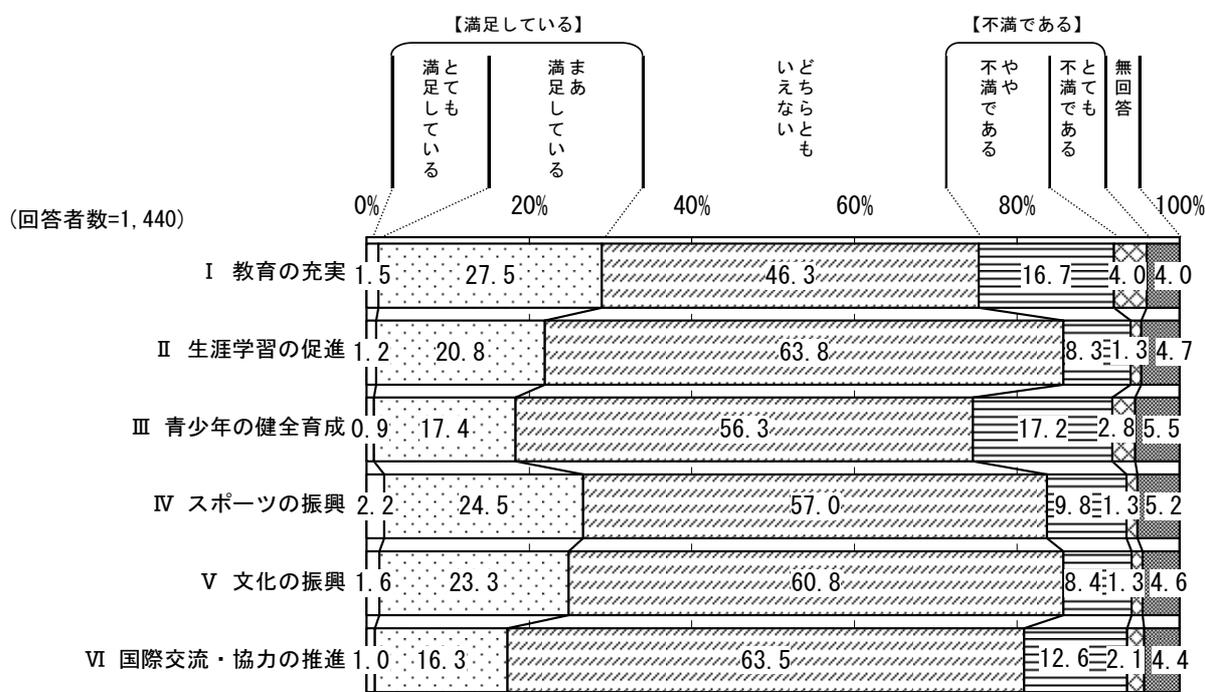
6) きらめく個性、豊かな心（満足度）

問3 「きらめく個性、豊かな心」についておたずねします。I～VIの各施策についてあなたの〈満足度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	満足度					
	① とても満足している	② まあ満足している	③ どちらともいえない	④ やや不満である	⑤ とても不満である	⑥ 無回答
〔回答者数=1,440〕						
I 教育の充実	1.5	27.5	46.3	16.7	4.0	4.0
II 生涯学習の促進	1.2	20.8	63.8	8.3	1.3	4.7
III 青少年の健全育成	0.9	17.4	56.3	17.2	2.8	5.5
IV スポーツの振興	2.2	24.5	57.0	9.8	1.3	5.2
V 文化の振興	1.6	23.3	60.8	8.4	1.3	4.6
VI 国際交流・協力の推進	1.0	16.3	63.5	12.6	2.1	4.4

「きらめく個性、豊かな心」の満足度については、“青少年の健全育成”を除く、すべての施策項目において「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。しかし、すべての施策項目において【満足している】が3割を下回り少なくなっている。



7) 創造性と活力あふれる地域（重要度）

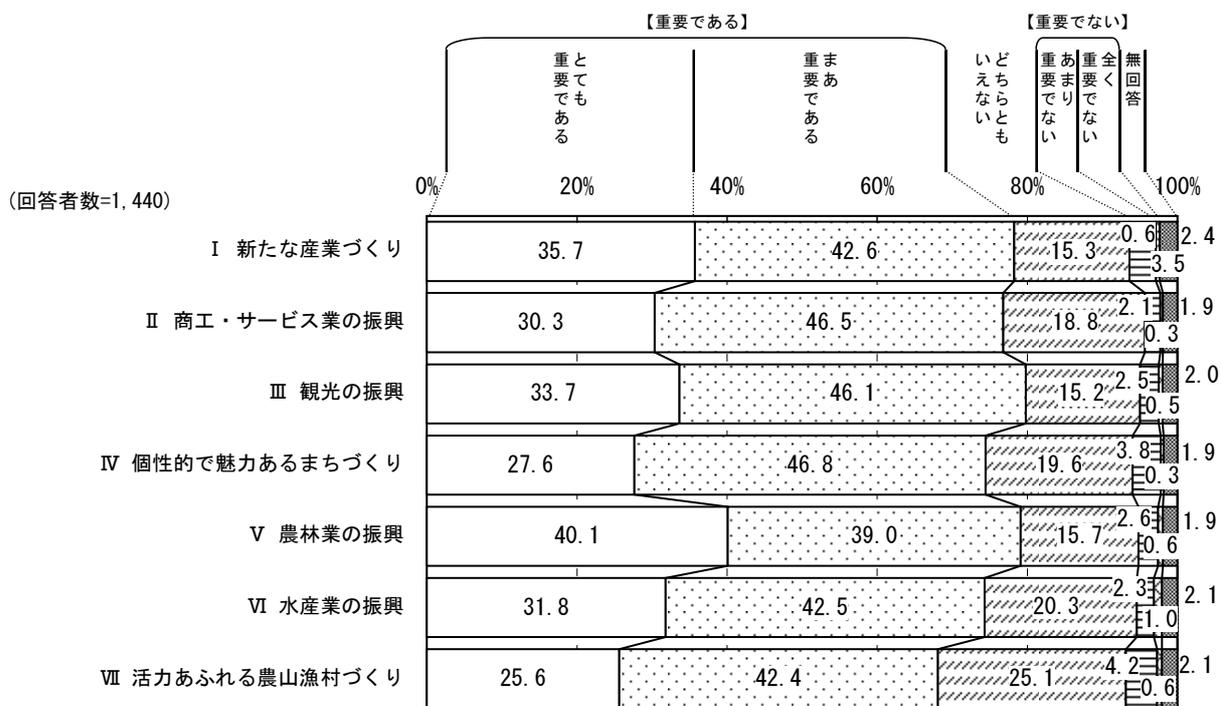
問4 「創造性と活力あふれる地域」についておたずねします。Ⅰ～Ⅶの各施策についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	⑥無回答
Ⅰ 新たな産業づくり	35.7	42.6	15.3	3.5	0.6	2.4
Ⅱ 商工・サービス業の振興	30.3	46.5	18.8	2.1	0.3	1.9
Ⅲ 観光の振興	33.7	46.1	15.2	2.5	0.5	2.0
Ⅳ 个性的で魅力あるまちづくり	27.6	46.8	19.6	3.8	0.3	1.9
Ⅴ 農林業の振興	40.1	39.0	15.7	2.6	0.6	1.9
Ⅵ 水産業の振興	31.8	42.5	20.3	2.3	1.0	2.1
Ⅶ 活力あふれる農山漁村づくり	25.6	42.4	25.1	4.2	0.6	2.1

〔回答者数=1,440〕

「創造性と活力あふれる地域」の重要度については、すべての施策項目において「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が6割を超えており、特に、“観光の振興”では79.8%と最も多くなっている。



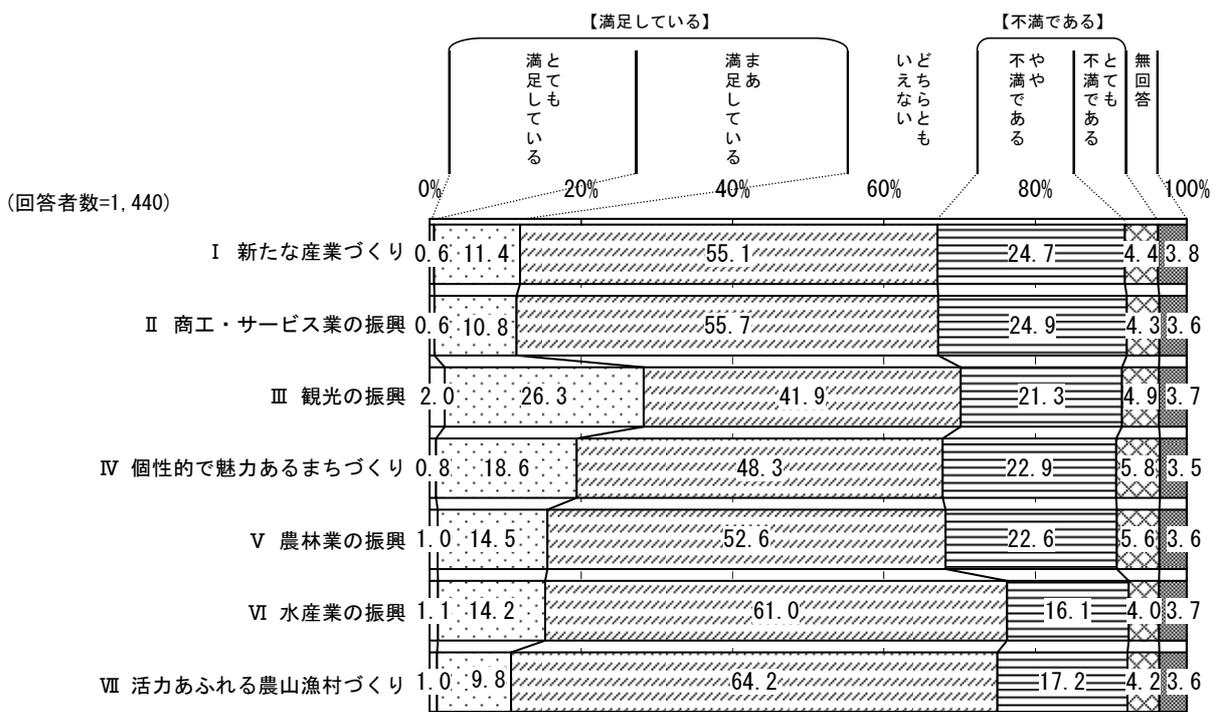
8) 創造性と活力あふれる地域（満足度）

問4 「創造性と活力あふれる地域」についておたずねします。I～VIIの各施策についてあなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	満足度					
	① とても満足している	② まあ満足している	③ どちらともいえない	④ やや不満である	⑤ とても不満である	⑥ 無回答
〔回答者数=1,440〕						
I 新たな産業づくり	0.6	11.4	55.1	24.7	4.4	3.8
II 商工・サービス業の振興	0.6	10.8	55.7	24.9	4.3	3.6
III 観光の振興	2.0	26.3	41.9	21.3	4.9	3.7
IV 個性的で魅力あるまちづくり	0.8	18.6	48.3	22.9	5.8	3.5
V 農林業の振興	1.0	14.5	52.6	22.6	5.6	3.6
VI 水産業の振興	1.1	14.2	61.0	16.1	4.0	3.7
VII 活力あふれる農山漁村づくり	1.0	9.8	64.2	17.2	4.2	3.6

「創造性と活力あふれる地域」の満足度については、「観光の振興」を除く、すべての施策項目において「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を下回り少なくなっている。



9) 新時代の基盤 (重要度)

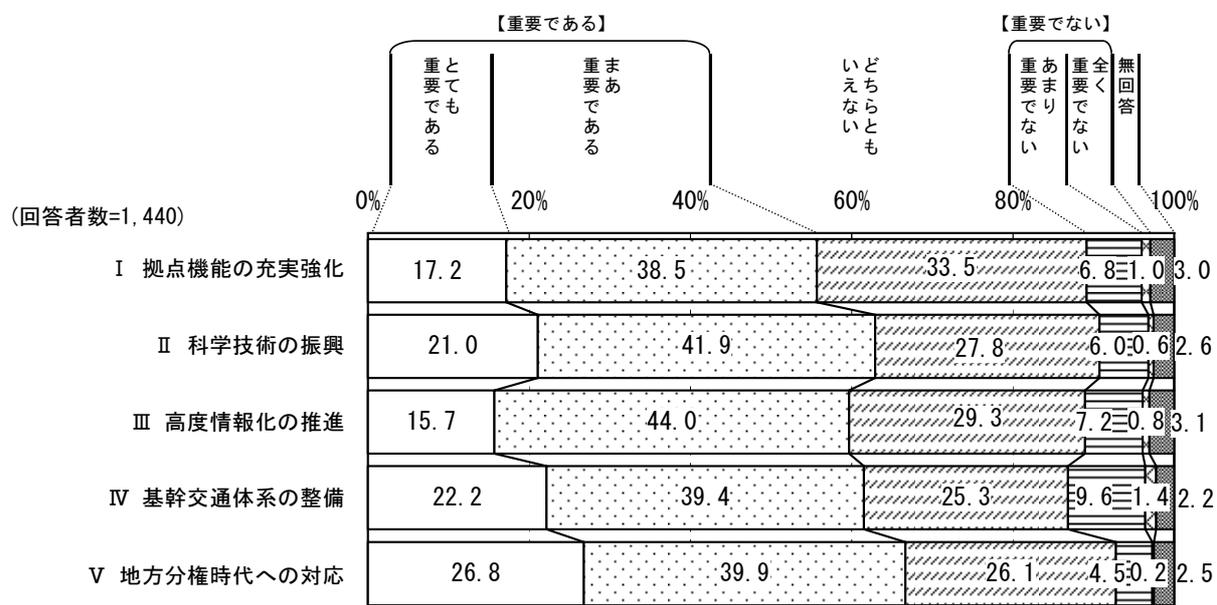
問5 「新時代の基盤」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	⑥無回答
I 拠点機能の充実強化	17.2	38.5	33.5	6.8	1.0	3.0
II 科学技術の振興	21.0	41.9	27.8	6.0	0.6	2.6
III 高度情報化の推進	15.7	44.0	29.3	7.2	0.8	3.1
IV 基幹交通体系の整備	22.2	39.4	25.3	9.6	1.4	2.2
V 地方分権時代への対応	26.8	39.9	26.1	4.5	0.2	2.5

[回答者数=1,440]

「新時代の基盤」の重要度については、すべての施策項目において「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】が5割を超えており、特に、“地方分権時代への対応”では66.7%と最も多くなっている。



10) 新時代の基盤（満足度）

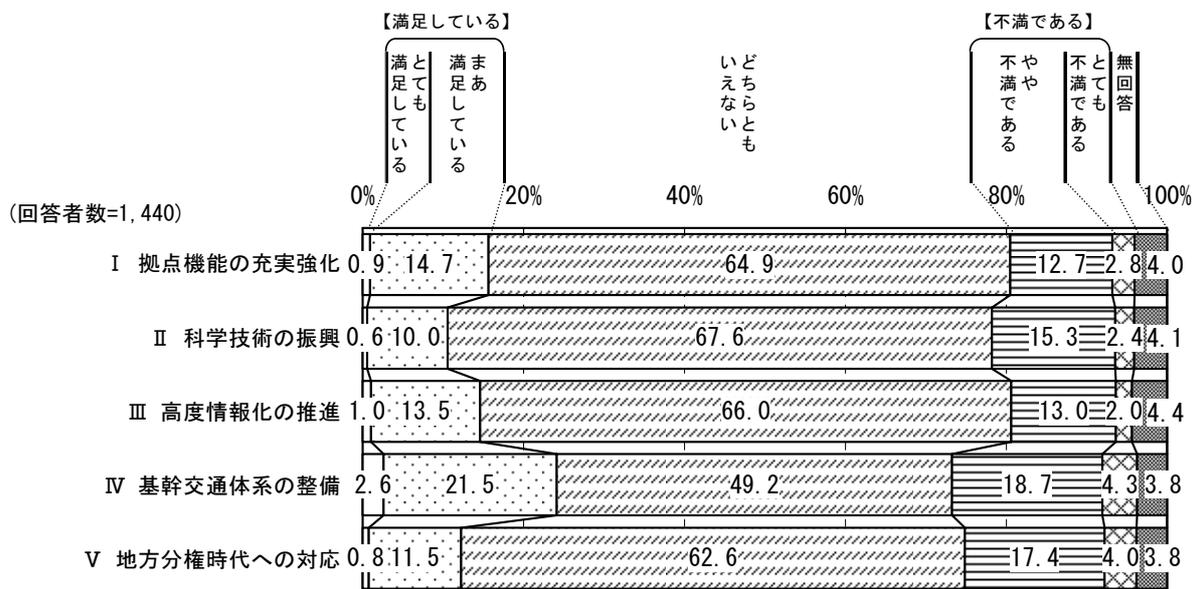
問5 「新時代の基盤」についておたずねします。I～Vの各施策についてあなたの「満足度」を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

(単位：%)

	満足度					
	① とても満足している	② まあ満足している	③ どちらともいえない	④ やや不満である	⑤ とても不満である	⑥ 無回答
I 拠点機能の充実強化	0.9	14.7	64.9	12.7	2.8	4.0
II 科学技術の振興	0.6	10.0	67.6	15.3	2.4	4.1
III 高度情報化の推進	1.0	13.5	66.0	13.0	2.0	4.4
IV 基幹交通体系の整備	2.6	21.5	49.2	18.7	4.3	3.8
V 地方分権時代への対応	0.8	11.5	62.6	17.4	4.0	3.8

〔回答者数=1,440〕

「新時代の基盤」の満足度については、“拠点機能の充実強化”と“基幹交通体系の整備”では「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「とても不満である」と「やや不満である」を合わせた【不満である】を上回っているが、【満足している】において3割を下回り少なくなっている。



(2) 次期総合計画について

1) 真に豊かさを実感できる生活を送るうえで重要なこと

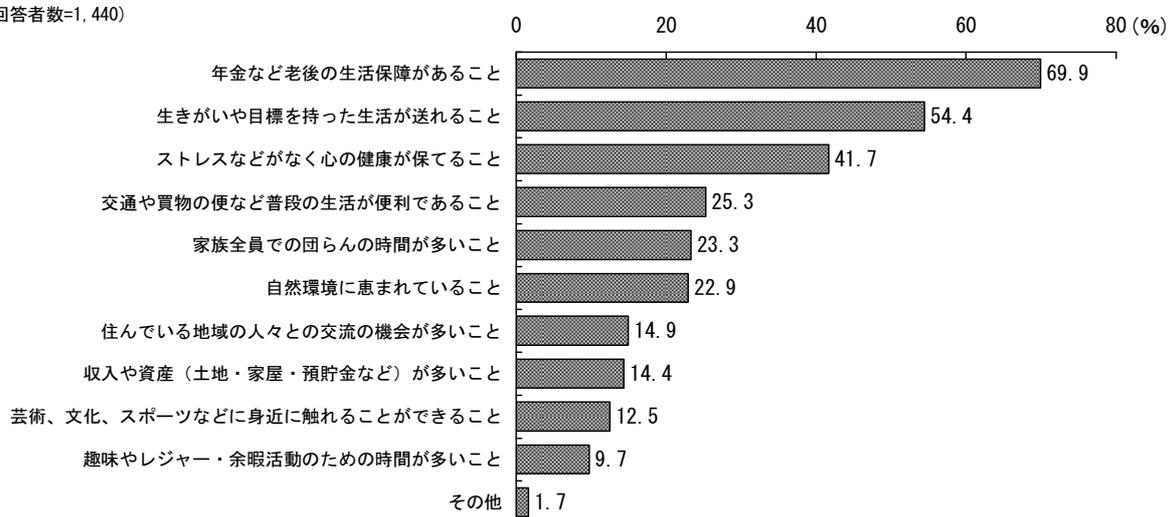
問6 あなたにとって「真に豊かさを実感できる生活」を送るうえで、特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

〔回答者数=1,440〕

1	年金など老後の生活保障があること	69.9%
2	生きがいや目標を持った生活が送れること	54.4%
3	ストレスなどがなく心の健康が保てること	41.7%
4	交通や買物の便など普段の生活が便利であること	25.3%
5	家族全員での団らんの時間が多いこと	23.3%
6	自然環境に恵まれていること	22.9%
7	住んでいる地域の人々との交流の機会が多いこと	14.9%
8	収入や資産（土地・家屋・預貯金など）が多いこと	14.4%
9	芸術、文化、スポーツなどに身近に触れることができること	12.5%
10	趣味やレジャー・余暇活動のための時間が多いこと	9.7%
11	その他	1.7%

「真に豊かさを実感できる生活」を送るうえで特に重要と思うものは、「年金など老後の生活保障があること」が69.9%で最も多く、次いで「生きがいや目標を持った生活が送れること」が54.4%、「ストレスなどがなく心の健康が保てること」が41.7%となっている。

(回答者数=1,440)



性別でみると、男性、女性ともに「年金など老後の生活保障があること」が最も多くなっており、男性よりも女性の方が若干多くなっている。

年齢別でみると、20歳代では「生きがいや目標を持った生活が送れること」と「ストレスなどがなく心の健康が保てること」が47.1%と最も多くなっているが、30歳代以降では「年金など老後の生活保障があること」が5割を超え、最も多くなっている。

職業別でみると、すべての職業において「年金など老後の生活保障があること」が最も多くなっており、農林漁業や主婦・主夫、無職においては8割程度と、他の職業より比較的多くなっている。

圏域別でみると、すべての圏域において「年金など老後の生活保障があること」が最も多くなっており、中讃地域では6割、他の圏域では7割を超えている。

(単位：%)

区 分	回答者数(人)	年金など老後の生活保障があること	生きがいや目標を持った生活が送れること	ストレスなどがなく心の健康が保てること	交通や買物の便など普段の生活が便利であること	家族全員での団らんの時間が多いこと	自然環境に恵まれていること	住んでいる地域の人々との交流の機会が多いこと	収入や資産(土地・家屋・預貯金など)が多いこと	芸術、文化、スポーツなど身近に触れることができること	趣味やレジャー・余暇活動のための時間が多いこと	その他
合 計	1,440	69.9	54.4	41.7	25.3	23.3	22.9	14.9	14.4	12.5	9.7	1.7
性別												
男性	650	66.6	54.6	39.4	20.6	24.5	24.8	14.9	17.2	13.4	12.2	2.3
女性	769	73.0	54.4	44.2	28.9	23.0	21.2	15.1	12.1	12.0	7.8	1.2
年齢別												
20～29歳	102	45.1	47.1	47.1	23.5	30.4	22.5	7.8	31.4	21.6	20.6	1.0
30～39歳	195	54.4	43.1	47.7	16.4	44.1	21.5	8.2	26.7	13.8	14.4	2.1
40～49歳	206	62.6	58.7	49.0	21.8	27.2	22.8	5.8	18.4	13.6	10.2	1.5
50～59歳	291	74.9	58.1	41.2	22.3	16.8	25.4	13.1	14.1	14.8	8.6	1.4
60～69歳	355	79.2	58.0	35.5	28.2	17.7	23.9	20.8	6.8	10.7	8.7	2.8
70歳以上	272	79.4	52.9	40.1	33.5	18.4	19.9	24.3	6.6	7.7	4.8	0.7
職業別												
農林漁業	72	77.8	56.9	30.6	25.0	20.8	20.8	36.1	8.3	4.2	5.6	0.0
商工業、サービス業、自由業など	204	67.6	55.4	39.7	22.1	20.1	24.0	14.2	17.6	17.6	8.8	2.9
会社、商店、官公庁などに勤務	577	62.4	55.3	44.0	19.9	29.8	24.8	9.5	18.9	13.9	13.2	1.4
主婦・主夫	309	79.3	50.5	44.0	35.3	21.7	18.8	17.8	9.7	9.7	7.4	1.6
無職	254	76.0	56.3	40.2	27.2	15.7	23.6	19.3	9.4	11.4	7.1	2.0
圏域別												
高松地域	975	70.4	55.6	39.5	25.9	23.3	22.8	14.2	15.5	13.2	10.1	1.3
東讃地域	110	70.0	51.8	41.8	27.3	25.5	22.7	19.1	13.6	7.3	7.3	0.9
小豆地域	41	75.6	46.3	41.5	31.7	19.5	17.1	19.5	4.9	9.8	14.6	0.0
中讃地域	190	64.2	51.6	48.9	21.6	24.7	26.3	14.7	13.2	12.6	9.5	2.6
西讃地域	124	73.4	54.8	47.6	21.8	21.0	21.0	16.1	11.3	12.1	8.1	4.0

2) 災害から地域を守る上で重要なこと

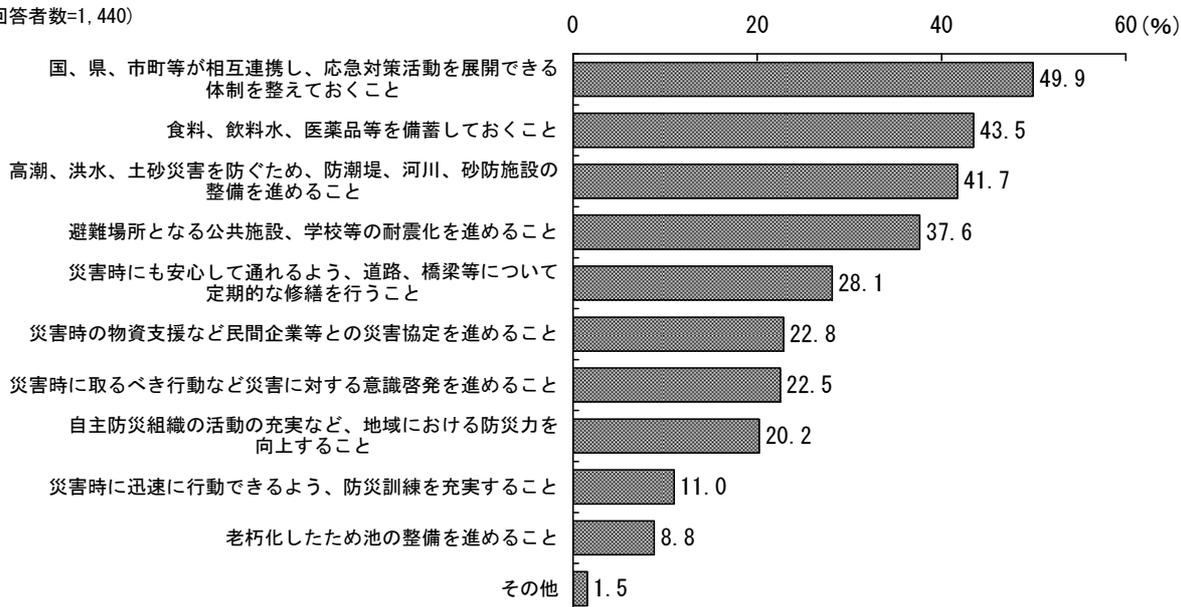
問7 災害から地域を守るうえで、特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,440]

1	国、県、市町等が相互連携し、応急対策活動を展開できる体制を整えておくこと	49.9%
2	食料、飲料水、医薬品等を備蓄しておくこと	43.5%
3	高潮、洪水、土砂災害を防ぐため、防潮堤、河川、砂防施設の整備を進めること	41.7%
4	避難場所となる公共施設、学校等の耐震化を進めること	37.6%
5	災害時にも安心して通れるよう、道路、橋梁等について定期的な修繕を行うこと	28.1%
6	災害時の物資支援など民間企業等との災害協定を進めること	22.8%
7	災害時に取るべき行動など災害に対する意識啓発を進めること	22.5%
8	自主防災組織の活動の充実など、地域における防災力を向上すること	20.2%
9	災害時に迅速に行動できるよう、防災訓練を充実すること	11.0%
10	老朽化したため池の整備を進めること	8.8%
11	その他	1.5%

災害から地域を守るうえで特に重要と思うものは、「国、県、市町等が相互連携し、応急対策活動を展開できる体制を整えておくこと」が49.9%で最も多く、次いで「食料、飲料水、医薬品等を備蓄しておくこと」が43.5%、「高潮、洪水、土砂災害を防ぐため、防潮堤、河川、砂防施設の整備を進めること」が41.7%となっている。

(回答者数=1,440)



性別でみると、男性、女性ともに「国、県、市町等が相互連携し、応急対策活動を展開できる体制を整えておくこと」が最も多くなっているが、男性では「高潮、洪水、土砂災害を防ぐため、防潮堤、河川、砂防施設の整備を進めること」が、女性では「食料、飲料水、医薬品等を備蓄しておくこと」が続いている。

年齢別でみると、20歳代は「食料、飲料水、医薬品等を備蓄しておくこと」が最も多くなっているが、その他の年齢では「国、県、市町等が相互連携し、応急対策活動を展開できる体制を整えておくこと」が最も多くなっている。

職業別でみると、商工業・サービス業、自由業などと主婦・主夫では「食料、飲料水、医薬品等を備蓄しておくこと」が最も多くなっているが、その他の職業では「国、県、市町等が相互連携し、応急対策活動を展開できる体制を整えておくこと」が最も多くなっている。

圏域別でみると、高松地域と西讃地域では「国、県、市町等が相互連携し、応急対策活動を展開できる体制を整えておくこと」が最も多く、東讃地域と中讃地域では「食料、飲料水、医薬品等を備蓄しておくこと」が、小豆地域では「高潮、洪水、土砂災害を防ぐため、防潮堤、河川、砂防施設の整備を進めること」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	国、県、市町等が相互連携し、応急対策活動を展開できる体制を整えておくこと	食料、飲料水、医薬品等を備蓄しておくこと	高潮、洪水、土砂災害を防ぐため、防潮堤、河川、砂防施設の整備を進めること	避難場所となる公共施設、学校等の耐震化を進めること	災害時にも安心して通れるよう、道路、橋梁等について定期的な修繕を行うこと	災害時の物資支援など民間企業等との災害協定を進めること	災害時に取るべき行動など災害に対する意識啓発を進めること	自主防災組織の活動の充実など、地域における防災力を向上すること	災害時に迅速に行動できるよう、防災訓練を充実すること	老朽化したため池の整備を進めること	その他
合 計		1,440	49.9	43.5	41.7	37.6	28.1	22.8	22.5	20.2	11.0	8.8	1.5
性 別	男性	650	50.9	40.5	41.4	37.8	25.8	21.2	24.2	20.5	11.5	10.8	1.8
	女性	769	49.0	45.8	42.5	37.8	30.4	24.4	21.2	20.5	10.5	7.0	1.3
年 齢 別	20～29歳	102	40.2	50.0	45.1	41.2	32.4	32.4	17.6	20.6	7.8	2.9	2.9
	30～39歳	195	49.7	48.7	36.9	42.6	26.7	21.5	27.2	16.9	10.3	5.6	2.1
	40～49歳	206	53.4	51.0	47.6	35.9	21.4	22.8	20.4	16.5	7.8	9.2	1.5
	50～59歳	291	55.3	35.4	43.6	32.3	27.5	26.1	23.0	22.0	10.7	8.9	1.7
	60～69歳	355	50.1	40.8	38.6	37.2	29.0	21.7	23.7	24.8	14.1	11.0	1.4
	70歳以上	272	44.5	43.4	42.6	41.5	33.1	18.8	21.0	18.4	11.4	9.6	0.7
職 業 別	農林漁業	72	52.8	30.6	34.7	36.1	27.8	18.1	20.8	23.6	12.5	20.8	1.4
	商工業、サービス業、自由業など	204	46.6	47.5	39.2	33.3	28.9	21.1	24.0	23.0	11.3	8.3	1.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	577	55.1	41.4	45.9	37.4	26.2	23.2	22.9	20.3	9.0	6.9	1.4
	主婦・主夫	309	46.9	47.9	40.5	38.8	31.7	23.6	20.4	20.7	12.0	8.4	1.3
	無職	254	44.1	42.9	39.8	41.7	29.1	24.0	23.6	17.7	13.8	10.2	2.4
圏 域 別	高松地域	975	50.6	43.2	43.9	36.8	27.5	24.5	23.2	19.1	10.6	8.5	1.3
	東讃地域	110	41.8	56.4	40.9	33.6	29.1	19.1	22.7	22.7	10.0	8.2	0.9
	小豆地域	41	46.3	31.7	48.8	36.6	29.3	22.0	22.0	22.0	12.2	4.9	2.4
	中讃地域	190	46.3	47.4	32.1	45.8	30.5	16.3	21.6	22.6	10.5	10.0	2.6
	西讃地域	124	58.9	32.3	37.9	35.5	28.2	23.4	18.5	22.6	15.3	11.3	1.6

3) 環境保全対策として重要なこと

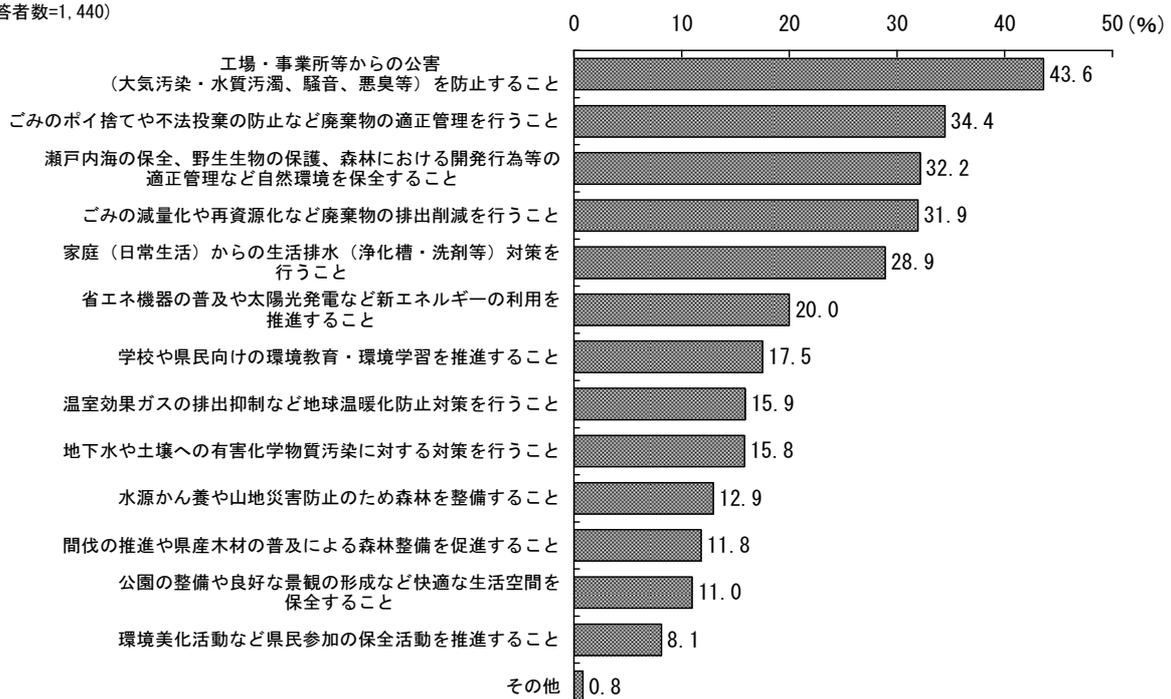
問8 環境保全対策として、特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,440]

1 工場・事業所等からの公害（大気汚染・水質汚濁、騒音、悪臭等）を防止すること	43.6%
2 ごみのポイ捨てや不法投棄の防止など廃棄物の適正管理を行うこと	34.4%
3 瀬戸内海の保全、野生生物の保護、森林における開発行為等の適正管理など自然環境を保全すること	32.2%
4 ごみの減量化や再資源化など廃棄物の排出削減を行うこと	31.9%
5 家庭（日常生活）からの生活排水（浄化槽・洗剤等）対策を行うこと	28.9%
6 省エネ機器の普及や太陽光発電など新エネルギーの利用を推進すること	20.0%
7 学校や県民向けの環境教育・環境学習を推進すること	17.5%
8 温室効果ガスの排出抑制など地球温暖化防止対策を行うこと	15.9%
9 地下水や土壌への有害化学物質汚染に対する対策を行うこと	15.8%
10 水源かん養や山地災害防止のため森林を整備すること	12.9%
11 間伐の推進や県産木材の普及による森林整備を促進すること	11.8%
12 公園の整備や良好な景観の形成など快適な生活空間を保全すること	11.0%
13 環境美化活動など県民参加の保全活動を推進すること	8.1%
14 その他	0.8%

環境保全対策として特に重要と思うものは、「工場・事業所等からの公害（大気汚染・水質汚濁、騒音、悪臭等）を防止すること」が43.6%で最も多く、次いで「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止など廃棄物の適正管理を行うこと」が34.4%、「瀬戸内海の保全、野生生物の保護、森林における開発行為等の適正管理など自然環境を保全すること」が32.2%となっている。

(回答者数=1,440)



性別でみると、男性、女性ともに「工場・事業所等からの公害（大気汚染・水質汚濁、騒音、悪臭等）を防止すること」が最も多くなっているが、男性では「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止など廃棄物の適正管理を行うこと」が、女性では「ごみの減量化や再資源化など廃棄物の排出削減を行うこと」が続いている。

年齢別でみると、すべての年齢で「工場・事業所等からの公害（大気汚染・水質汚濁、騒音、悪臭等）を防止すること」が4割台と最も多くなっている。

職業別でみると、すべての職業で「工場・事業所等からの公害（大気汚染・水質汚濁、騒音、悪臭等）を防止すること」が最も多くなっているが、農林漁業では「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止など廃棄物の適正管理を行うこと」が同様に最も多くなっている。

圏域別でみると、東讃地域では「瀬戸内海の保全、野生生物の保護、森林における開発行為等の適正管理など自然環境を保全すること」が最も多く、その他の圏域では「工場・事業所等からの公害（大気汚染・水質汚濁、騒音、悪臭等）を防止すること」が最も多くなっている。

区 分		回答者数(人)	工場・事業所等からの公害（大気汚染・水質汚濁、騒音、悪臭等）を防止すること	ごみのポイ捨てや不法投棄の防止など廃棄物の適正管理を行うこと	瀬戸内海の保全、野生生物の保護、森林における開発行為等の適正管理など自然環境を保全すること	ごみの減量化や再資源化など廃棄物の排出削減を行うこと	家庭（日常生活）からの生活排水（浄化槽・洗剤等）対策を行うこと	省エネ機器の普及や太陽光発電など新エネルギー利用を推進すること	学校や県民向けの環境教育・環境学習を推進すること	温室効果ガスの排出抑制など地球温暖化防止対策を行うこと	地下水や土壌への有害化学物質汚染に対する対策を行うこと	水源かん養や山地災害防止のため森林を整備すること	間伐の推進や県産木材の普及による森林整備を促進すること	公園の整備や良好な景観の形成など快適な生活空間を保全すること	環境美化活動など県民参加の保全活動を推進すること	その他
合 計		1,440	43.6	34.4	32.2	31.9	28.9	20.0	17.5	15.9	15.8	12.9	11.8	11.0	8.1	0.8
性別	男性	650	42.9	36.6	32.8	30.8	27.4	22.5	18.0	12.5	14.8	11.2	12.6	10.9	9.8	1.5
	女性	769	44.5	33.2	31.6	33.3	30.7	17.8	17.3	19.0	16.5	14.4	10.9	11.1	6.5	0.3
年齢別	20～29歳	102	47.1	37.3	34.3	30.4	27.5	26.5	14.7	16.7	10.8	9.8	11.8	13.7	9.8	2.0
	30～39歳	195	46.7	33.3	31.8	29.2	26.2	26.7	20.0	15.9	17.4	7.2	9.7	16.4	5.1	1.5
	40～49歳	206	46.1	37.4	31.1	35.4	32.0	20.4	17.5	15.5	15.0	12.1	7.3	9.7	4.4	0.5
	50～59歳	291	41.2	30.6	34.0	35.7	30.9	17.2	17.5	15.5	15.8	16.8	11.0	11.0	6.2	0.7
	60～69歳	355	44.2	35.8	33.2	32.1	23.4	17.2	16.6	16.6	14.9	15.5	15.5	10.4	10.7	1.1
	70歳以上	272	40.4	35.7	28.3	28.3	35.3	19.1	18.8	15.8	17.6	11.4	12.5	7.7	11.0	0.0
職業別	農林漁業	72	44.4	44.4	23.6	20.8	25.0	16.7	25.0	12.5	13.9	20.8	13.9	4.2	13.9	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	204	38.2	36.3	35.8	31.4	22.5	23.0	23.0	13.2	14.7	16.7	13.2	6.9	5.9	1.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	577	45.4	33.3	32.6	33.1	30.3	21.5	16.6	16.3	14.9	10.9	9.4	13.7	7.6	0.9
	主婦・主夫	309	44.0	35.3	32.7	35.3	30.7	15.2	14.9	20.1	18.4	11.3	11.0	12.0	8.4	0.3
	無職	254	43.3	33.1	30.3	29.9	31.1	21.3	16.9	13.4	15.7	15.0	16.5	9.1	9.1	1.2
圏域別	高松地域	975	44.7	35.2	32.7	32.5	29.2	19.8	16.9	15.5	15.7	12.6	12.2	11.2	7.7	0.9
	東讃地域	110	33.6	35.5	42.7	29.1	26.4	21.8	17.3	16.4	13.6	16.4	14.5	10.0	9.1	0.9
	小豆地域	41	41.5	36.6	36.6	34.1	34.1	7.3	9.8	22.0	9.8	17.1	2.4	9.8	7.3	0.0
	中讃地域	190	43.2	34.2	25.8	28.9	25.3	21.6	20.5	17.4	15.3	13.2	9.5	12.1	10.0	1.1
	西讃地域	124	45.2	27.4	26.6	33.9	32.3	21.8	20.2	14.5	21.8	10.5	12.9	8.9	8.1	0.0

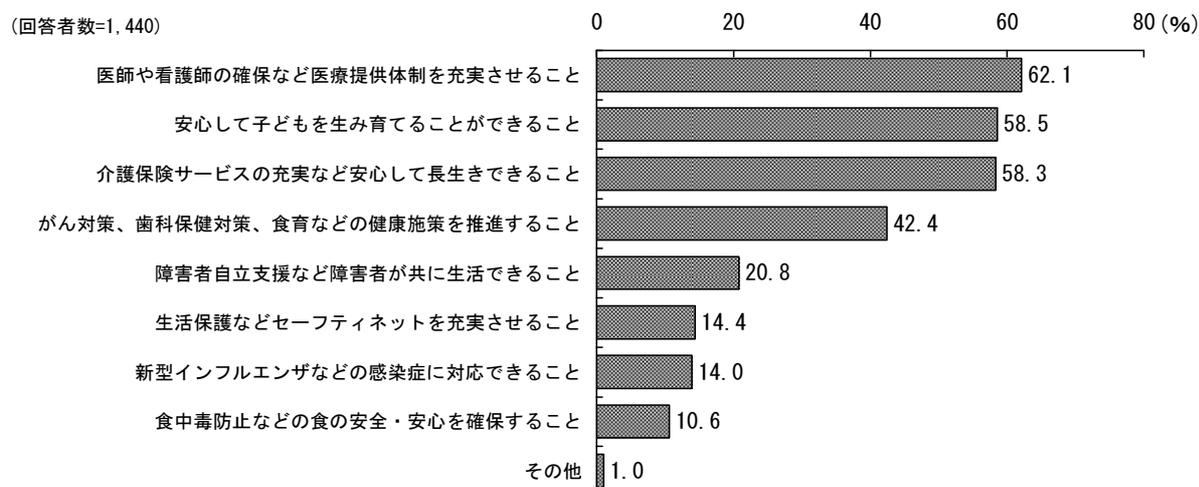
4) 健康増進や福祉の充実で重要なこと

問9 県民の健康を増進し、福祉を充実させるうえで、特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,440]

1	医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること	62.1%
2	安心して子どもを産み育てることができること	58.5%
3	介護保険サービスの充実など安心して長生きできること	58.3%
4	がん対策、歯科保健対策、食育などの健康施策を推進すること	42.4%
5	障害者自立支援など障害者が共に生活できること	20.8%
6	生活保護などセーフティネットを充実させること	14.4%
7	新型インフルエンザなどの感染症に対応できること	14.0%
8	食中毒防止などの食の安全・安心を確保すること	10.6%
9	その他	1.0%

県民の健康を増進し、福祉を充実させるうえで特に重要と思うものは、「医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること」が62.1%で最も多く、次いで「安心して子どもを産み育てることができること」が58.5%、「介護保険サービスの充実など安心して長生きできること」が58.3%となっている。



性別でみると、男性では「医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること」が最も多く、「安心して子どもを産み育てることができること」が続く、女性では「介護保険サービスの充実など安心して長生きできること」が最も多く、「医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること」が続いている。

年齢別でみると、20歳代と30歳代では「安心して子どもを産み育てることができること」が7割を超え最も多く、50歳代では「介護保険サービスの充実など安心して長生きできること」が、その他の年齢では「医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること」が最も多くなっている。

職業別でみると、最も多い割合を占めているものは、農林漁業で「介護保険サービスの充実など安心して長生きできること」、商工業・サービス業、自由業などと会社・商店・官公庁などに勤務で「安心して子どもを産み育てることができること」、主婦・主夫と無職で「医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること」となっている。

圏域別でみると、高松地域と東讃地域、小豆地域では「医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること」が最も多く、中讃地域と西讃地域では「安心して子どもを産み育てることができること」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	医師や看護師の確保など医療提供体制を充実させること	安心して子どもを産み育てることができること	介護保険サービスの充実など安心して長生きできること	がん対策、歯科保健対策、食育などの健康施策を推進すること	障害者自立支援など障害者が共に生活できること	生活保護などセーフティネットを充実させること	新型コロナウイルス感染症に対応できること	食中毒防止などの食の安全・安心を確保すること	その他
合 計		1,440	62.1	58.5	58.3	42.4	20.8	14.4	14.0	10.6	1.0
性別	男性	650	63.4	58.6	55.1	40.2	19.1	17.2	14.6	10.6	1.1
	女性	769	60.9	59.0	61.4	44.9	22.4	12.1	13.5	10.5	1.0
年齢別	20～29歳	102	54.9	75.5	47.1	43.1	17.6	21.6	17.6	6.9	0.0
	30～39歳	195	61.5	77.9	46.7	42.6	20.5	11.3	14.9	6.7	1.0
	40～49歳	206	63.6	54.4	59.2	42.7	20.4	14.6	12.1	7.8	1.5
	50～59歳	291	60.1	58.1	62.9	40.2	22.0	15.5	12.0	7.2	1.7
	60～69歳	355	64.5	54.9	61.7	43.4	20.6	13.0	14.4	13.8	1.4
	70歳以上	272	62.5	47.4	61.4	44.9	22.1	14.7	15.4	16.9	0.0
	農林漁業	72	58.3	54.2	59.7	51.4	13.9	11.1	18.1	12.5	0.0
職業別	商工業、サービス業、自由業など	204	53.4	61.8	52.0	40.7	21.6	13.7	16.7	9.3	2.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	577	62.6	64.1	57.5	41.9	21.1	13.7	12.3	8.8	1.2
	主婦・主夫	309	63.4	57.6	60.2	43.4	21.7	12.9	15.9	12.9	0.3
	無職	254	67.3	46.5	63.4	43.7	20.9	18.9	12.2	12.6	1.2
	高松地域	975	61.0	57.1	59.8	42.9	21.4	14.8	14.2	10.5	1.1
圏域別	東讃地域	110	70.9	53.6	52.7	43.6	20.9	17.3	13.6	14.5	0.0
	小豆地域	41	80.5	46.3	58.5	29.3	14.6	12.2	14.6	14.6	0.0
	中讃地域	190	61.1	64.2	55.8	41.6	20.5	10.5	13.7	10.5	1.6
	西讃地域	124	58.1	69.4	55.6	43.5	18.5	15.3	12.9	7.3	0.8

5) 雇用の安定と促進を図るために重要なこと

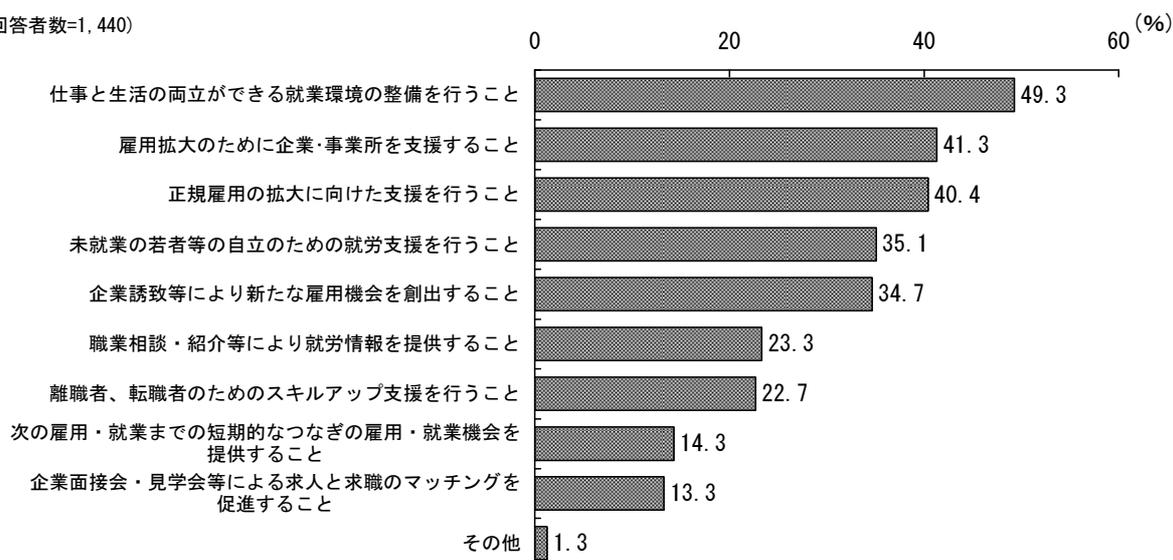
問10 雇用の安定と促進を図るため、特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,440]

1	仕事と生活の両立ができる就業環境の整備を行うこと	49.3%
2	雇用拡大のために企業・事業所を支援すること	41.3%
3	正規雇用の拡大に向けた支援を行うこと	40.4%
4	未就業の若者等の自立のための就労支援を行うこと	35.1%
5	企業誘致等により新たな雇用機会を創出すること	34.7%
6	職業相談・紹介等により就労情報を提供すること	23.3%
7	離職者、転職者のためのスキルアップ支援を行うこと	22.7%
8	次の雇用・就業までの短期的なつなぎの雇用・就業機会を提供すること	14.3%
9	企業面接会・見学会等による求人と求職のマッチングを促進すること	13.3%
10	その他	1.3%

雇用の安定と促進を図るために特に重要と思うものは、「仕事と生活の両立ができる就業環境の整備を行うこと」が49.3%で最も多く、次いで「雇用拡大のために企業・事業所を支援すること」が41.3%、「正規雇用の拡大に向けた支援を行うこと」が40.4%となっている。

(回答者数=1,440)



性別でみると、男性、女性ともに「仕事と生活の両立ができる就業環境の整備を行うこと」が最も多くなっており、男性では「雇用拡大のために企業・事業所を支援すること」が続き、女性では「正規雇用の拡大に向けた支援を行うこと」が続いている。

年齢別でみると、20歳代は「正規雇用の拡大に向けた支援を行うこと」が最も多くなっているが、その他の年齢では「仕事と生活の両立ができる就業環境の整備を行うこと」が最も多くなっている。

職業別でみると、商工業・サービス業、自由業などと無職では「雇用拡大のために企業・事業所を支援すること」が最も多くなっているが、その他の職業では「仕事と生活の両立ができる就業環境の整備を行うこと」が最も多くなっている。

圏域別でみると、小豆地域では「雇用拡大のために企業・事業所を支援すること」が最も多くなっているが、その他の圏域では「仕事と生活の両立ができる就業環境の整備を行うこと」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	仕事と生活の両立ができる就業環境の整備を行うこと	雇用拡大のために企業・事業所を支援すること	正規雇用の拡大に向けた支援を行うこと	未就業の若者等の自立のための就労支援を行うこと	企業誘致等により新たな雇用機会を創出すること	職業相談・紹介等により就労情報を提供する	離職者・転職者のためのスキルアップ支援を行うこと	次の雇用・就業機会までの短期的なつなぎの雇用・就業機会を提供すること	企業面接会・見学会等による求人と求職のマッチングを促進すること	その他
合 計		1,440	49.3	41.3	40.4	35.1	34.7	23.3	22.7	14.3	13.3	1.3
性 別	男性	650	44.5	43.8	38.9	31.8	42.3	22.6	19.7	12.8	14.3	2.0
	女性	769	53.4	39.7	42.0	37.8	28.5	23.9	25.0	15.7	12.6	0.7
年 齢 別	20～29歳	102	50.0	48.0	51.0	30.4	18.6	28.4	19.6	10.8	20.6	1.0
	30～39歳	195	59.0	44.1	33.3	22.1	29.7	22.1	26.2	17.9	16.4	1.5
	40～49歳	206	46.1	45.6	40.8	33.0	31.1	19.4	26.2	13.6	15.0	1.5
	50～59歳	291	44.0	38.1	42.3	36.8	37.8	21.0	28.2	16.8	10.7	1.7
	60～69歳	355	51.3	35.8	41.1	40.3	40.6	26.5	18.9	13.2	11.5	1.4
	70歳以上	272	48.2	45.2	39.0	39.3	36.4	23.5	16.9	12.5	12.5	0.4
職 業 別	農林漁業	72	50.0	45.8	45.8	31.9	45.8	16.7	13.9	8.3	9.7	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	204	44.1	45.1	36.8	35.8	32.8	22.5	22.5	13.7	11.3	3.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	577	50.1	41.8	41.2	31.4	33.4	24.1	24.6	15.6	14.4	1.2
	主婦・主夫	309	56.3	34.0	41.1	43.4	31.1	23.6	24.9	13.9	11.7	0.6
	無職	254	44.1	46.1	39.8	34.3	41.7	24.4	18.1	14.6	16.1	0.8
圏 域 別	高松地域	975	48.2	40.5	41.4	35.1	34.3	22.4	23.7	13.5	13.3	1.3
	東讃地域	110	52.7	40.0	34.5	30.0	39.1	23.6	21.8	18.2	8.2	0.9
	小豆地域	41	39.0	56.1	31.7	29.3	41.5	36.6	22.0	17.1	17.1	0.0
	中讃地域	190	55.8	43.2	40.0	34.2	31.1	27.4	16.3	17.9	14.7	1.6
	西讃地域	124	48.4	41.1	41.1	42.7	37.1	20.2	25.8	10.5	13.7	0.8

6) 県産品の消費拡大、競争力強化を図るために重要なこと

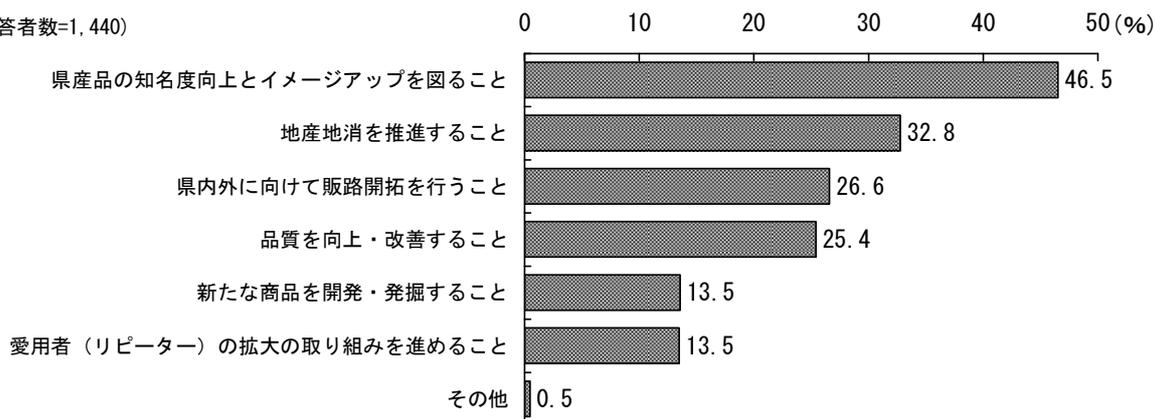
問11 県産品の消費拡大、競争力強化を図るため、特に重要と思うものはどれですか。次の中から2つまで選んでください。

[回答者数=1,440]

1	県産品の知名度向上とイメージアップを図ること	46.5%
2	地産地消を推進すること	32.8%
3	県内外に向けて販路開拓を行うこと	26.6%
4	品質を向上・改善すること	25.4%
5	新たな商品を開発・発掘すること	13.5%
6	愛用者（リピーター）の拡大の取り組みを進めること	13.5%
7	その他	0.5%

県産品の消費拡大、競争力強化を図るために特に重要と思うものは、「県産品の知名度向上とイメージアップを図ること」が46.5%で最も多く、次いで「地産地消を推進すること」が32.8%、「県内外に向けて販路開拓を行うこと」が26.6%となっている。

(回答者数=1,440)



すべての属性において、「県産品の知名度向上とイメージアップを図ること」が最も多くなっており、その中でも特に小豆地域と西讃地域においては5割を超え多くなっている。

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	県産品の知名度向上とイメージアップを図ること	地産地消を推進すること	県内外に向けて販路開拓を行うこと	品質を向上・改善すること	新たな商品を開発・発掘すること	愛用者(リピーター)の拡大の取り組みを進めること	その他
合 計		1,440	46.5	32.8	26.6	25.4	13.5	13.5	0.5
性 別	男性	650	45.5	27.7	27.2	23.8	15.8	13.5	0.6
	女性	769	47.6	36.9	26.1	26.7	11.8	13.4	0.4
年 齢 別	20～29歳	102	45.1	29.4	26.5	25.5	11.8	18.6	0.0
	30～39歳	195	45.1	32.3	21.0	20.5	12.3	17.4	1.0
	40～49歳	206	42.7	34.0	23.8	23.3	12.1	18.9	0.5
	50～59歳	291	48.1	31.3	26.8	25.4	17.2	18.2	0.3
	60～69歳	355	48.2	39.2	29.0	25.1	13.0	9.0	0.8
	70歳以上	272	47.1	25.7	30.1	30.9	14.0	5.1	0.0
職 業 別	農林漁業	72	44.4	30.6	22.2	22.2	18.1	6.9	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	204	48.0	32.8	27.9	28.4	13.2	15.7	1.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	577	45.1	30.3	25.6	22.7	14.7	16.5	0.7
	主婦・主夫	309	49.5	37.2	27.2	26.9	11.7	11.0	0.0
	無職	254	46.1	32.3	29.9	27.6	13.4	9.4	0.4
圏 域 別	高松地域	975	47.0	33.1	28.3	24.7	12.9	12.4	0.3
	東讃地域	110	49.1	35.5	21.8	27.3	16.4	20.9	0.9
	小豆地域	41	51.2	14.6	12.2	31.7	17.1	17.1	0.0
	中讃地域	190	37.4	32.6	25.3	24.2	13.2	16.8	1.1
	西讃地域	124	53.2	33.9	24.2	29.0	15.3	8.9	0.8

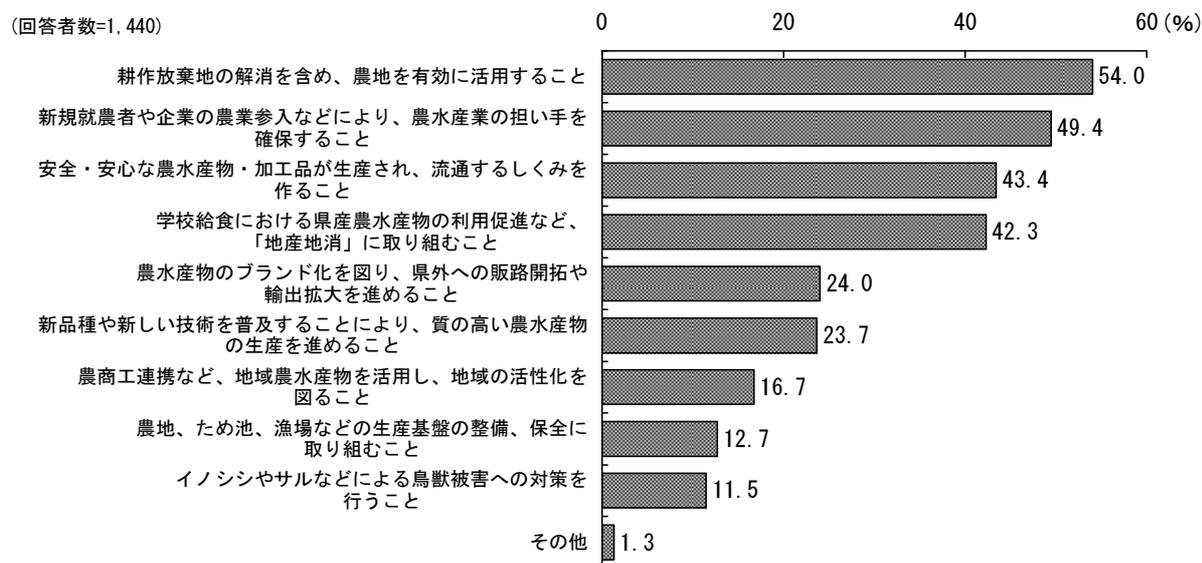
7) 農水産業を活性化するために重要なこと

問12 農水産業を活性化するために、特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

〔回答者数=1,440〕

1	耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること	54.0%
2	新規就農者や企業の農業参入などにより、農水産業の担い手を確保すること	49.4%
3	安全・安心な農水産物・加工品が生産され、流通するしくみを作ること	43.4%
4	学校給食における県産農水産物の利用促進など、「地産地消」に取り組むこと	42.3%
5	農水産物のブランド化を図り、県外への販路開拓や輸出拡大を進めること	24.0%
6	新品種や新しい技術を普及することにより、質の高い農水産物の生産を進めること	23.7%
7	農商工連携など、地域農水産物を活用し、地域の活性化を図ること	16.7%
8	農地、ため池、漁場などの生産基盤の整備、保全に取り組むこと	12.7%
9	イノシシやサルなどによる鳥獣被害への対策を行うこと	11.5%
10	その他	1.3%

農水産業を活性化するために特に重要と思うものは、「耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること」が54.0%で最も多く、次いで「新規就農者や企業の農業参入などにより、農水産業の担い手を確保すること」が49.4%、「安全・安心な農水産物・加工品が生産され、流通するしくみを作ること」が43.4%となっている。



性別でみると、男性、女性ともに「耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること」が5割を超え最も多くなっている。

年齢別でみると、20歳代と30歳代は「新規就農者や企業の農業参入などにより、農水産業の担い手を確保すること」が最も多くなっているが、その他の年齢では「耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること」が最も多くなっている。

職業別でみると、すべての職業において「耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること」が最も多くなっているが、会社・商店・官公庁などに勤務では、同様に「新規就農者や企業の農業参入などにより、農水産業の担い手を確保すること」も最も多くなっている。

圏域別でみると、西讃地域では「耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること」と「新規就農者や企業の農業参入などにより、農水産業の担い手を確保すること」が最も多く、小豆地域では「新規就農者や企業の農業参入などにより、農水産業の担い手を確保すること」が、その他の圏域では「耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	回答者数(人)	耕作放棄地の解消を含め、農地を有効に活用すること	新規就農者や企業の農業参入などにより、農水産業の担い手を確保すること	安全・安心な農水産物・加工品が生産され、流通するしくみを作ること	学校給食における県産農水産物の利用促進など、「地産地消」に取り組むこと	農水産物のブランド化を図り、県外への販路開拓や輸出拡大を進めること	新品種や新しい技術を普及することにより、質の高い農水産物の生産を進めること	農工商連携など、地域農水産物を活用し、地域の活性化を図ること	農地、ため池、漁場などの生産基盤の整備、保全に取り組むこと	イノベーションなどによる鳥獣被害への対策を行うこと	その他
合 計	1,440	54.0	49.4	43.4	42.3	24.0	23.7	16.7	12.7	11.5	1.3
性別											
男性	650	52.3	49.5	41.8	39.7	25.8	25.1	16.2	14.6	11.8	2.0
女性	769	56.0	50.1	45.0	44.9	22.9	22.4	17.3	10.8	10.8	0.8
年齢別											
20～29歳	102	49.0	62.7	49.0	43.1	28.4	14.7	13.7	12.7	4.9	2.0
30～39歳	195	46.2	53.8	43.6	50.8	25.6	14.9	13.8	12.3	8.2	2.6
40～49歳	206	54.9	51.5	43.2	41.3	27.2	19.4	13.6	13.6	10.7	0.5
50～59歳	291	52.9	52.6	44.3	33.3	28.2	27.8	19.9	12.0	7.9	1.7
60～69歳	355	60.0	45.4	39.2	43.1	21.7	26.5	20.0	13.0	14.4	1.4
70歳以上	272	55.9	43.4	46.7	46.0	18.0	28.3	14.7	12.1	15.8	0.4
職業別											
農林漁業	72	58.3	37.5	31.9	38.9	25.0	26.4	11.1	23.6	22.2	1.4
商工業、サービス業、自由業など	204	53.9	49.0	43.1	43.1	18.1	22.5	19.1	12.3	14.7	2.5
会社、商店、官公庁などに勤務	577	52.0	52.0	43.7	39.3	29.6	23.4	17.2	12.0	6.9	1.2
主婦・主夫	309	55.0	50.8	48.9	48.2	19.1	20.7	17.8	10.0	11.7	0.6
無職	254	58.7	47.6	40.6	42.5	22.8	28.7	14.6	14.2	14.6	1.6
圏域別											
高松地域	975	54.1	48.5	43.7	42.4	25.1	24.3	16.5	12.9	9.9	1.3
東讃地域	110	53.6	42.7	37.3	35.5	21.8	20.9	16.4	10.9	25.5	0.9
小豆地域	41	41.5	58.5	36.6	39.0	24.4	31.7	19.5	12.2	17.1	0.0
中讃地域	190	54.7	51.1	46.3	47.9	22.1	21.1	17.4	9.5	11.1	2.6
西讃地域	124	57.3	57.3	44.4	40.3	20.2	22.6	16.9	17.7	9.7	0.0

8) 交通事故防止対策として重要なこと

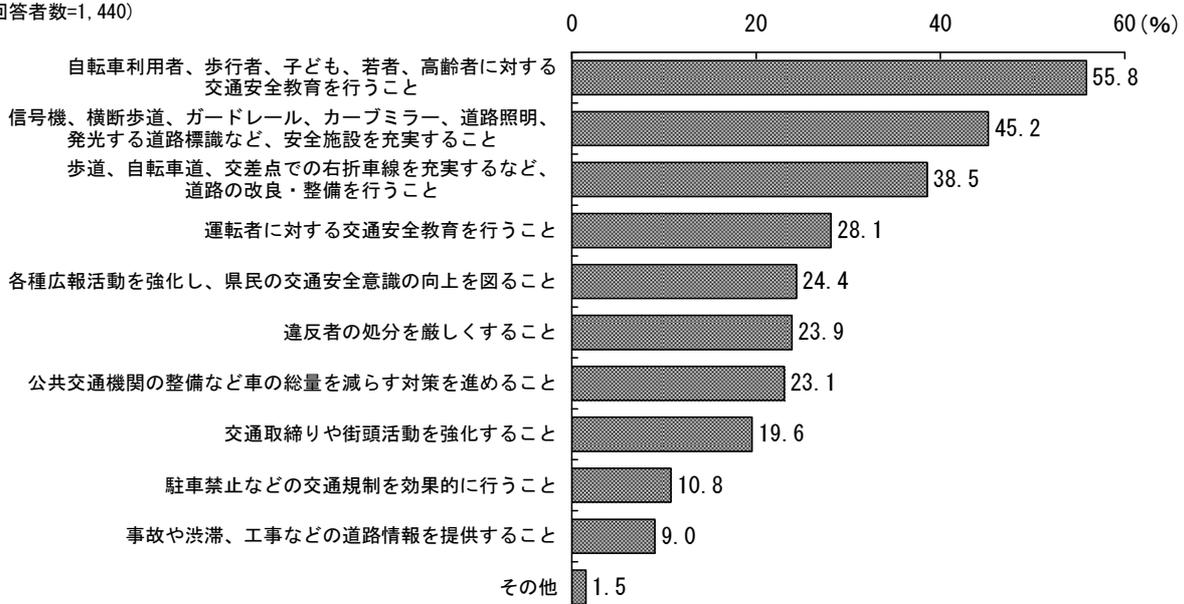
問13 交通事故防止対策として、特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

〔回答者数=1,440〕

1	自転車利用者、歩行者、子ども、若者、高齢者に対する交通安全教育を行うこと	55.8%
2	信号機、横断歩道、ガードレール、カーブミラー、道路照明、発光する道路標識など、安全施設を充実すること	45.2%
3	歩道、自転車道、交差点での右折車線を充実するなど、道路の改良・整備を行うこと	38.5%
4	運転者に対する交通安全教育を行うこと	28.1%
5	各種広報活動を強化し、県民の交通安全意識の向上を図ること	24.4%
6	違反者の処分を厳しくすること	23.9%
7	公共交通機関の整備など車の総量を減らす対策を進めること	23.1%
8	交通取締りや街頭活動を強化すること	19.6%
9	駐車禁止などの交通規制を効果的に行うこと	10.8%
10	事故や渋滞、工事などの道路情報を提供すること	9.0%
11	その他	1.5%

交通事故防止対策として特に重要と思うものは、「自転車利用者、歩行者、子ども、若者、高齢者に対する交通安全教育を行うこと」が55.8%で最も多く、次いで「信号機、横断歩道、ガードレール、カーブミラー、道路照明、発光する道路標識など、安全施設を充実すること」が45.2%、「歩道、自転車道、交差点での右折車線を充実するなど、道路の改良・整備を行うこと」が38.5%となっている。

(回答者数=1,440)



すべての属性において、「自転車利用者、歩行者、子ども、若者、高齢者に対する交通安全教育を行うこと」が最も多くなっており、特に農林漁業では7割、50歳代と東讃地域では6割を超えて多くなっている。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	自転車利用者、歩行者、子ども、若者、高齢者に対する交通安全教育を行うこと	信号機、横断歩道、ガードレール、道路照明、発光する道路標識など、安全施設を充実すること	歩道、自転車道、交差点での右折車線を充実すること	運転者に対する交通安全教育を行うこと	各種広報活動を強化し、県民の交通安全意識の向上を図ること	違反者の処分を厳しくすること	公共交通機関の整備など車の総量を減らす対策を進めること	交通取締りや街頭活動を強化すること	駐車禁止などの交通規制を効果的に行うこと	事故や渋滞、工事などの道路情報を提供するこ	その他
合計	1,440	55.8	45.2	38.5	28.1	24.4	23.9	23.1	19.6	10.8	9.0	1.5
性別												
男性	650	54.8	40.8	39.2	25.7	23.2	25.1	26.6	23.1	12.6	7.7	1.7
女性	769	57.3	49.3	38.6	30.4	25.2	23.3	19.9	16.9	9.0	9.9	1.4
年齢別												
20～29歳	102	55.9	52.0	41.2	26.5	17.6	24.5	16.7	21.6	10.8	17.6	4.9
30～39歳	195	53.8	46.2	37.9	24.6	14.9	28.2	19.0	28.2	11.3	10.8	3.6
40～49歳	206	47.6	45.1	40.8	28.2	18.9	25.2	23.3	24.3	13.1	10.7	1.0
50～59歳	291	61.5	47.4	38.8	26.5	22.0	19.6	20.6	16.2	10.0	11.7	1.0
60～69歳	355	57.7	42.5	38.6	28.7	31.0	22.8	28.7	17.2	9.3	5.6	0.6
70歳以上	272	55.9	43.8	37.5	33.5	31.6	26.8	23.2	16.5	10.3	4.0	1.1
職業別												
農林漁業	72	70.8	40.3	37.5	31.9	29.2	18.1	23.6	12.5	5.6	4.2	0.0
商工業、サービス業、自由業など	204	51.0	45.6	39.7	27.0	24.0	25.5	22.5	22.5	8.3	9.8	2.9
会社、商店、官公庁などに勤務	577	54.4	47.0	38.6	27.0	21.1	22.7	21.1	20.6	12.8	10.9	2.3
主婦・主夫	309	57.6	49.5	38.8	26.9	28.2	24.9	21.4	18.4	8.1	9.4	0.6
無職	254	57.9	38.6	39.0	33.9	26.8	27.6	28.7	19.3	11.8	4.3	0.4
圏域別												
高松地域	975	55.8	43.8	37.5	28.7	22.2	25.1	24.2	20.1	12.0	9.0	1.5
東讃地域	110	61.8	49.1	30.9	33.6	21.8	21.8	21.8	12.7	7.3	7.3	1.8
小豆地域	41	56.1	39.0	46.3	31.7	36.6	22.0	9.8	22.0	14.6	9.8	0.0
中讃地域	190	54.2	46.3	42.6	26.8	28.9	21.6	22.1	20.5	7.4	10.5	1.6
西讃地域	124	53.2	53.2	44.4	19.4	33.1	20.2	21.0	19.4	8.1	8.1	1.6

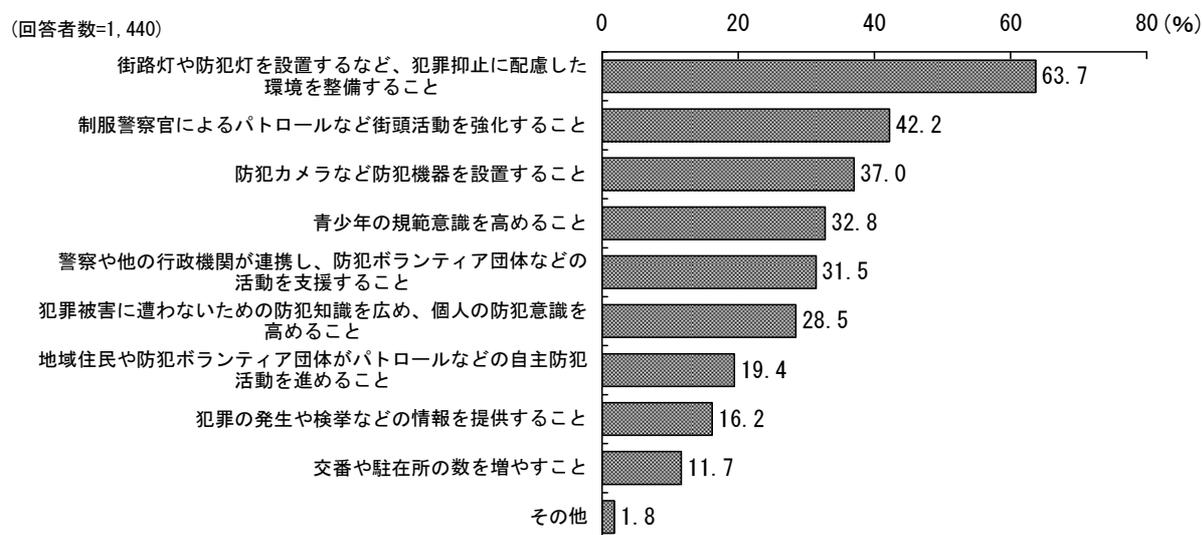
9) 安全で安心なまちづくりのために重要なこと

問14 犯罪のない安全で安心なまちづくりのために特に重要と思うものはどれですか。
次の中から3つまで選んでください。

〔回答者数=1,440〕

1	街路灯や防犯灯を設置するなど、犯罪抑止に配慮した環境を整備すること	63.7%
2	制服警察官によるパトロールなど街頭活動を強化すること	42.2%
3	防犯カメラなど防犯機器を設置すること	37.0%
4	青少年の規範意識を高めること	32.8%
5	警察や他の行政機関が連携し、防犯ボランティア団体などの活動を支援すること	31.5%
6	犯罪被害に遭わないための防犯知識を広め、個人の防犯意識を高めること	28.5%
7	地域住民や防犯ボランティア団体がパトロールなどの自主防犯活動を進めること	19.4%
8	犯罪の発生や検挙などの情報を提供すること	16.2%
9	交番や駐在所の数を増やすこと	11.7%
10	その他	1.8%

犯罪のない安全で安心なまちづくりのために特に重要と思うものは、「街路灯や防犯灯を設置するなど、犯罪抑止に配慮した環境を整備すること」が63.7%で最も多く、次いで「制服警察官によるパトロールなど街頭活動を強化すること」が42.2%、「防犯カメラなど防犯機器を設置すること」が37.0%となっている。



すべての属性において「街路灯や防犯灯を設置するなど、犯罪抑止に配慮した環境を整備すること」が5割を超え、最も多くなっている。

(単位：%)

区 分		回答者数(人)	街路灯や防犯灯を設置するなど、犯罪抑止に配慮した環境を整備すること	制服警察官によるパトロールなど街頭活動を強化すること	防犯カメラなど防犯機器を設置すること	青少年の規範意識を高めること	警察や他の行政機関が連携し、防犯ボランティア団体などの活動を支援すること	犯罪被害に遭わないための防犯知識を広め、個人の防犯意識を高めること	地域住民や防犯ボランティア団体がパトロールなどの自主防犯活動を進めること	犯罪の発生や検挙などの情報を提供すること	交番や駐在所の数を増やすこと	その他
合 計		1,440	63.7	42.2	37.0	32.8	31.5	28.5	19.4	16.2	11.7	1.8
性別	男性	650	60.3	45.1	35.5	36.3	32.3	25.2	20.3	15.8	13.5	2.0
	女性	769	67.4	40.8	38.5	30.0	31.2	31.5	19.2	16.6	10.3	1.7
年齢別	20～29歳	102	62.7	40.2	30.4	27.5	35.3	31.4	26.5	18.6	6.9	2.0
	30～39歳	195	57.4	50.8	33.3	33.3	31.8	23.6	22.1	21.0	8.7	2.6
	40～49歳	206	69.4	44.7	44.2	28.6	30.6	21.4	16.0	18.4	8.7	1.9
	50～59歳	291	67.7	42.3	36.1	32.0	32.0	26.1	16.8	14.4	15.5	2.4
	60～69歳	355	65.4	38.3	37.7	35.5	31.0	34.9	17.7	16.1	11.3	2.0
	70歳以上	272	59.6	43.0	37.5	36.0	32.0	30.9	23.9	12.5	14.7	0.4
職業別	農林漁業	72	58.3	36.1	30.6	40.3	30.6	40.3	23.6	13.9	6.9	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	204	60.3	43.1	35.3	34.8	35.8	25.0	17.6	16.2	10.8	4.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	577	67.1	44.5	34.7	31.4	33.1	26.2	18.2	17.0	12.0	1.6
	主婦・主夫	309	67.0	38.2	43.0	31.1	28.2	30.4	23.3	16.2	10.7	1.9
	無職	254	58.7	46.1	39.0	35.0	30.3	31.5	19.7	15.4	15.4	0.8
圏域別	高松地域	975	63.6	41.5	37.7	32.7	32.4	27.3	20.1	15.7	12.4	1.5
	東讃地域	110	62.7	43.6	34.5	36.4	24.5	32.7	16.4	18.2	10.0	1.8
	小豆地域	41	68.3	41.5	36.6	26.8	34.1	31.7	14.6	9.8	17.1	4.9
	中讃地域	190	63.7	37.9	38.4	33.7	31.1	27.9	19.5	19.5	11.1	2.6
	西讃地域	124	63.7	53.2	31.5	30.6	29.8	33.9	18.5	15.3	6.5	1.6

10) 香川県のあり方として望ましい姿

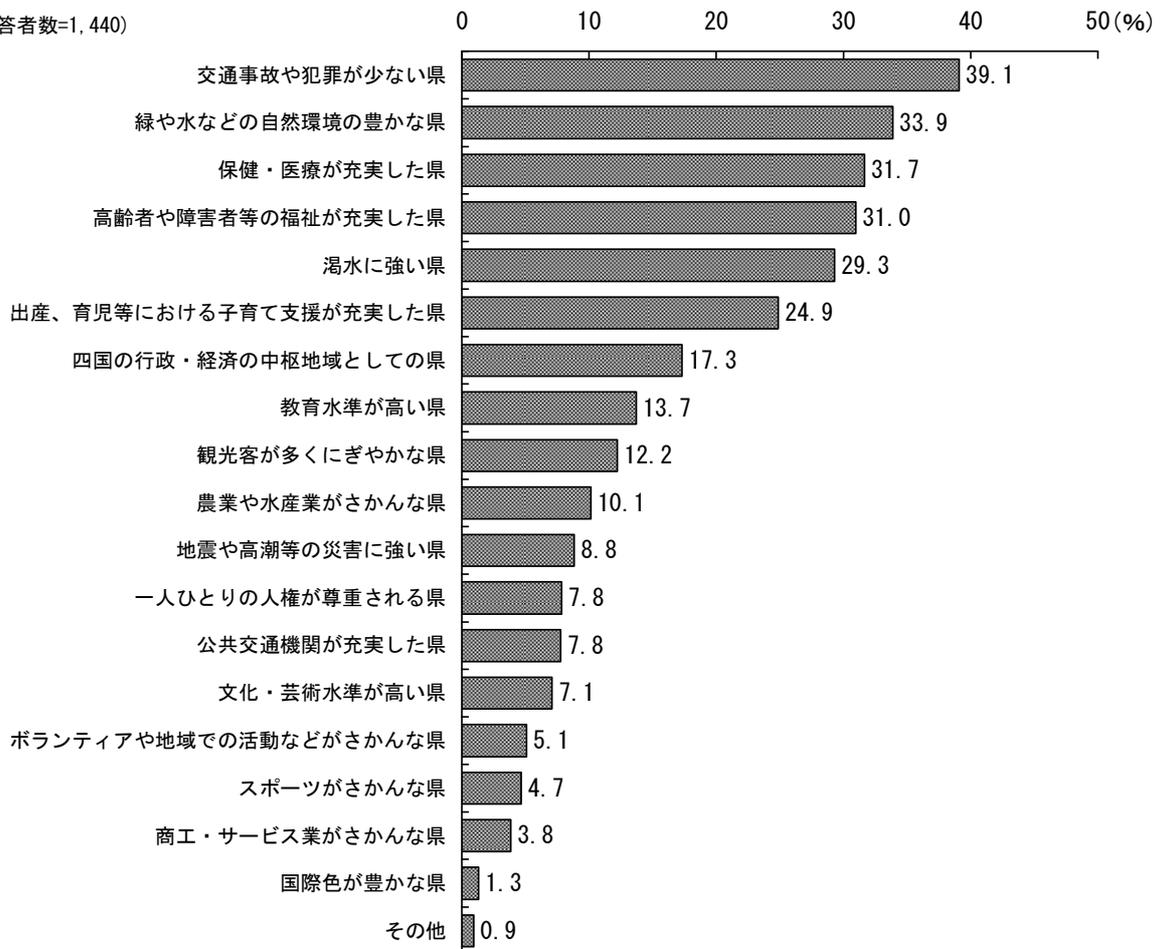
問15 将来の香川県のあり方として望ましい姿と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

〔回答者数=1,440〕

1	交通事故や犯罪が少ない県	39.1%
2	緑や水などの自然環境の豊かな県	33.9%
3	保健・医療が充実した県	31.7%
4	高齢者や障害者等の福祉が充実した県	31.0%
5	渇水に強い県	29.3%
6	出産、育児等における子育て支援が充実した県	24.9%
7	四国の行政・経済の中核地域としての県	17.3%
8	教育水準が高い県	13.7%
9	観光客が多くにぎやかな県	12.2%
10	農業や水産業がさかんな県	10.1%
11	地震や高潮等の災害に強い県	8.8%
12	一人ひとりの人権が尊重される県	7.8%
13	公共交通機関が充実した県	7.8%
14	文化・芸術水準が高い県	7.1%
15	ボランティアや地域での活動などがさかんな県	5.1%
16	スポーツがさかんな県	4.7%
17	商工・サービス業がさかんな県	3.8%
18	国際色が豊かな県	1.3%
19	その他	0.9%

将来の香川県のあり方として望ましい姿と思うものは、「交通事故や犯罪が少ない県」が39.1%で最も多く、次いで「緑や水などの自然環境の豊かな県」が33.9%、「保健・医療が充実した県」が31.7%となっている。

(回答者数=1,440)



性別でみると、男性、女性ともに「交通事故や犯罪が少ない県」が最も多くなっている。

年齢別でみると、20歳代では「交通事故や犯罪が少ない県」「緑や水などの自然環境の豊かな県」「出産、育児等における子育て支援が充実した県」が4割を超え最も多くなっており、30歳代では「出産、育児等における子育て支援が充実した県」が、40歳代と60歳代、70歳以上では「交通事故や犯罪が少ない県」が、50歳代では「緑や水などの自然環境の豊かな県」が最も多くなっている。

職業別でみると、農林漁業において「緑や水などの自然環境の豊かな県」が最も多くなっているが、その他の職業では「交通事故や犯罪が少ない県」が最も多くなっている。

圏域別でみると、東讃地域では「緑や水などの自然環境の豊かな県」が、小豆地域では「保健・医療が充実した県」が最も多く、その他の圏域では「交通事故や犯罪が少ない県」が最も多くなっている。

(単位：%)

区分	回答者数(人)	交通事故や犯罪が少ない県	緑や水などの自然環境の豊かな県	保健・医療が充実した県	高齢者や障害者等の福祉が充実した県	渇水に強い県	出産、育児等における子育て支援が充実した県	四国の行政・経済の中枢地域としての県	教育水準が高い県	観光客が多くにぎやかな県	農業や水産業がさかんな県	地震や高潮等の災害に強い県	一人ひとりの人権が尊重される県	公共交通機関が充実した県	文化・芸術水準が高い県	ボランティアや地域での活動などがさかんな県	スポーツがさかんな県	商工・サービス業がさかんな県	国際色が豊かな県	その他	
合計	1,440	39.1	33.9	31.7	31.0	29.3	24.9	17.3	13.7	12.2	10.1	8.8	7.8	7.8	7.1	5.1	4.7	3.8	1.3	0.9	
性別	男性	650	37.7	33.2	31.4	28.0	29.7	22.9	20.2	16.0	12.9	10.6	8.3	6.6	8.3	7.5	5.4	6.6	3.8	1.5	1.4
	女性	769	41.0	35.0	32.2	34.1	29.3	26.9	15.2	12.0	11.8	9.9	9.4	9.0	7.4	6.9	4.8	3.1	3.8	1.2	0.5
年齢別	20～29歳	102	40.2	40.2	25.5	17.6	24.5	40.2	14.7	10.8	15.7	6.9	4.9	6.9	8.8	12.7	3.9	4.9	7.8	2.0	0.0
	30～39歳	195	34.9	29.2	31.8	21.0	27.2	51.8	12.8	17.4	16.4	11.8	7.7	5.1	4.6	4.1	3.1	5.6	4.6	1.0	2.1
	40～49歳	206	41.7	34.0	36.9	23.8	28.6	20.4	15.5	17.5	11.7	8.7	12.6	8.3	8.7	10.2	4.9	4.9	3.4	1.9	1.0
	50～59歳	291	34.4	36.1	34.0	35.4	26.8	19.9	20.6	11.3	11.3	10.3	7.9	10.7	7.9	9.6	5.5	4.8	3.1	1.4	1.4
	60～69歳	355	40.8	31.0	31.0	33.8	31.8	20.6	18.6	11.0	13.2	13.0	8.5	8.2	8.5	5.6	6.5	4.2	5.1	0.8	0.8
	70歳以上	272	44.1	37.5	29.4	41.5	33.5	15.1	18.4	15.8	8.5	7.7	9.9	6.6	8.5	4.4	5.1	4.4	1.5	1.5	0.0
職業別	農林漁業	72	36.1	40.3	31.9	31.9	30.6	19.4	23.6	16.7	8.3	23.6	4.2	5.6	5.6	2.8	4.2	2.8	1.4	4.2	1.4
	商工業、サービス業、自由業など	204	38.2	32.8	28.9	22.5	28.4	25.5	20.6	13.7	11.3	11.8	7.4	9.8	7.8	9.8	5.9	6.9	7.4	1.0	2.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	577	36.7	33.3	34.5	26.3	26.2	28.1	17.9	16.3	12.8	9.9	9.7	8.0	7.3	8.5	4.9	5.4	4.5	1.2	1.0
	主婦・主夫	309	43.7	31.4	31.4	40.1	32.7	27.5	16.2	9.1	12.3	8.7	10.4	6.8	7.4	5.5	4.9	3.2	2.9	1.3	0.0
	無職	254	42.1	38.6	29.1	38.6	34.3	16.9	14.2	13.0	13.4	7.5	7.9	8.3	10.2	5.5	5.9	3.9	1.2	1.2	0.8
圏域別	高松地域	975	39.1	32.5	31.2	31.3	32.4	24.1	17.4	13.2	13.2	9.3	8.2	7.5	7.7	7.1	5.6	4.9	3.1	1.1	0.8
	東讃地域	110	36.4	40.9	33.6	30.9	21.8	30.0	18.2	12.7	11.8	10.0	14.5	3.6	10.9	2.7	0.0	4.5	6.4	0.9	0.9
	小豆地域	41	34.1	34.1	46.3	34.1	12.2	24.4	14.6	14.6	22.0	4.9	9.8	14.6	9.8	2.4	2.4	7.3	9.8	0.0	0.0
	中讃地域	190	42.6	35.3	29.5	30.0	24.2	26.8	16.8	15.8	8.9	13.2	6.3	9.5	5.3	8.4	5.8	4.7	4.7	2.6	2.1
	西讃地域	124	37.9	36.3	32.3	29.0	25.0	23.4	16.9	14.5	6.5	13.7	12.1	9.7	8.9	10.5	4.8	1.6	4.0	1.6	0.0